

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄戦	前期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	吉浜 忍	1年	sinobu@oki.ac.jp	

学びの準備	ねらい 沖縄戦は沖縄の歴史にとって欠くことのできない出来事である。それだけに現在でも沖縄戦の影響が沖縄の人びとの心や沖縄の社会に色濃く残っている。基地問題、教科書問題、歴史認識問題はその象徴である。この講義では沖縄戦を具体的・体系的に学ぶ。内容は、「授業の展開計画」に示した通りであるが、大まかに言えば沖縄戦の実相や教訓、戦争の不条理、さらに継承の現実と課題である。	メッセージ 沖縄戦の個別具体的な事象から実相を学ぶことやなぜ沖縄戦が現在進行形なのかを学ぶことができる。
	到達目標 沖縄戦の知識を獲得し、理解や認識を深めることによって、自らが沖縄戦の証言者になる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス(体験者の思いとは、沖縄戦の「記憶」とは)	
	2	沖縄戦への道(皇民化教育、同化政策)	配布したプリントを読み返す
3	第三十二軍(日本軍)の沖縄配備(要塞化した沖縄、沖縄作戦、日本軍の沖縄人観)	同上	
4	沖縄戦の経過(十・十空襲から降伏調印)	同上	
5	地域の沖縄戦①(中部の沖縄戦)	同上、体験者の話を聞く	
6	地域の沖縄戦②(南部の沖縄戦)	同上、体験者の話を聞く	
7	地域の沖縄戦③(北部の沖縄戦)	同上、体験者の話を聞く	
8	地域の沖縄戦④(宮古・八重山・久米島の沖縄戦)	同上、体験者の話を聞く	
9	沖縄戦の諸相①(学徒隊・防衛隊など根こそぎ戦場動員)	同上、関係文献を読む	
10	沖縄戦の諸相②(住民虐殺、「集団自決」)	同上、関係文献を読む	
11	沖縄戦の諸相③(御真影の末路、慰安所、障害者・ハンセン病患者の沖縄戦)	同上、関係文献を読む	
12	収容所から帰村(収容所、戦災孤児、青空教育、軍作業)	同上、体験者の話を聞く	
13	沖縄戦の継承①(沖縄戦の記録、平和の礎、資料館、戦跡)	同上、資料館・戦跡に行く	
14	沖縄戦の継承②(戦後処理、不発弾、慰霊の塔、PTSD)	同上	
15	まとめ(知識、理解の確認)	同上	
16	テスト		
	テキスト・参考文献・資料など 講義で、毎回テキストとして自作プリント(一回の講義で2~5枚)を配布する。 参考文献はプリントに表記する、もしくは講義の中で適宜紹介する。		
	学びの手立て 学びの手立て 毎回、自作のプリント4枚程度を教材にして講義する。 履修の心構え 毎回、出席確認する。		
	評価 ①出席・態度・意欲 10点 ②課題レポート 10点 ③テスト点 80点 ①+②+③=100点満点で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 沖縄の歴史、平和・基地関連科目を履修する。沖縄戦で学んだことを通して沖縄の現実を見つめる。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄戦	後期	火 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	吉浜 忍	1年	sinobu@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 沖縄戦は沖縄の歴史にとって欠くことのできない出来事である。それだけに現在でも沖縄戦の影響が沖縄の人びとの心お沖縄の社会に色濃く残っている。基地問題、教科書問題、歴史認識問題はその象徴である。この講義では沖縄戦を具体的・体系的に学ぶ。内容は、「授業の展開計画」に示した通りであるが、大まかに言えば、沖縄戦の実相や教訓、戦争の不条理、さらに継承の現実と課題である。	メッセージ 沖縄戦の個別具体的な事象から実相やなぜ沖縄戦が現在進行形なのかを学ぶことができる。
	到達目標 沖縄戦の知識を習得し、理解や認識を深めることによって、自らが沖縄戦の証言者になる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	ガイダンス(体験者の思いとは、沖縄戦の「記憶」とは)
	2	沖縄戦への道(皇民化教育、同化政策)
	3	第三十二軍(日本軍)の沖縄配備(要塞化した沖縄、沖縄作戦、日本軍の沖縄人観)
	4	沖縄戦の経過の概要(十・十空襲から降伏調印)
	5	地域の沖縄戦①(中部の沖縄戦)
	6	地域の沖縄戦②(南部の沖縄戦)
	7	地域の沖縄戦③(北部の沖縄戦)
	8	地域の沖縄戦④(宮古・八重山・久米島の沖縄戦)
学びの実践	9	沖縄戦の諸相①(学徒隊、根こそぎ動員)
	10	沖縄戦の諸相②(住民虐殺、「集団自決」)
	11	沖縄戦の諸相③(御真影、慰安所、障害者、ハンセン病)
	12	収容所からの帰村(収容所、戦災孤児、青空教育、軍作業)
	13	沖縄戦の継承①(沖縄戦の記録、平和の礎、資料館、戦跡)
	14	沖縄戦の継承②(戦後処理、不発弾、慰霊の塔、PTSD)
	15	まとめ(知識、理解の確認)
	16	テスト
学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト・参考文献・資料など 講義で、毎回自作プリント(一回の講義で2~5枚)を配布する。 参考文献はプリントに表記する、もしくは講義の中で適宜紹介する。	
	学びの手立て 学びの手立て 毎回自作プリントを教材にして講義する。 履修の心構え 毎回出席確認する。無断欠席をしないこと。	
	評価 ①出席・態度・意欲 10点 ②課題レポート 10点 ③テスト 80点 ①+②+③=100点満点で評価する。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 沖縄の歴史、平和、基地関連の科目を履修することで、沖縄戦で学んだことが生かされる。
-------	--

※ポリシーとの関連性 沖縄の観光をテーマに、自らが生きる社会の、地域経済の見識を深めるための講義となる。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の観光	前期	土2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-千住 直広	1年	授業終了後に教室で受け付けます。ptt514@kiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	観光は基本的に人と場所に関する現象だと言われている。つまり、観光はレジャーやレクリエーションを主目的に旅行した際の、一時的滞在や移動に発生する現象ととらえることができる。したがって、本講義では、観光客の受け入れ側である観光地で展開される自然的・社会的・経済的な現象を総合的に検討し、観光地特有の問題・課題や観光地づくりについて概説します。	沖縄の観光について、現状・課題などを幅広く伝えます。この機会に、沖縄についての見識を深めて下さい。
到達目標	本講義の目的は、ゲストとしては楽しい観光であるが、その観光をホスト側の視点に立ち、誘客方法や、受け入れ側の問題や課題を認識し、その対応策を考える能力を身につけることができます。顧客ニーズについても把握できるようになります。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	シラバスをよく読むこと
	2	沖縄観光の展開と観光客特性	レジュメをよく読むこと
	3	観光資源（自然・人文資源、世界遺産、課題と対応）	同上
	4	観光産業①宿泊施設（ホテル、民宿など）	同上
	5	観光産業②運輸業（航空業、レンタカー、観光バス、クルーズ船など）	同上
	6	観光産業③ダイビングサービス（事業者特性、海面利用問題）	同上
	7	観光産業④旅行業	同上
	8	観光産業⑤テーマパーク、エステ・スパ、ショッピングツーリズム	同上
	9	観光による影響①経済的影響、自然的影響	同上
	10	観光による影響②社会・文化的影響	同上
	11	持続可能な観光①エコツーリズム	同上
	12	持続可能な観光②グリーンツーリズム、ウエルネス、健康保養観光	同上
	13	観光政策①沖縄観光振興計画と振興事業（リゾートウェディングなど）	同上
14	観光政策②開発規制を目的とした条例と要綱	同上	
15	地域の取組み	同上	
16	テスト		
実践	テキスト・参考文献・資料など 講義では、その都度レジュメ・資料等を配布する。適宜指示する。 日頃より新聞を読むこと。		
学びの手立て	私語、授業中の携帯電話は厳禁。講義を受講する上での最低限のマナーは、心得ておくこと。 病気等やむをえない理由による欠席の場合は次の講義で申し出ること。 講義内容をより理解するためには、日頃より新聞をよく読むこと。 また、実際、観光業へ就職したい学生の履修が望まれる。		
評価	レポート及びテスト（50%）、平常点（50%）を総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目として、「観光経済論」、「観光情報論」がある。 実際、宿泊施設や観光地などに足を運び、観光客の動向を自分の目で確かめることが望ましい。
-------	---

※ポリシーとの関連性 沖縄の観光をテーマに、自らが生きる社会の、地域経済の見識を深めるための講義となる。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の観光	後期	土2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-千住 直広	1年	授業終了後に教室で受け付けます。ptt514@kiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	観光は基本的に人と場所に関する現象だと言われている。つまり、観光はレジャーやレクリエーションを主目的に旅行した際の、一時的滞在や移動に発生する現象ととらえることができる。したがって、本講義では、観光客の受け入れ側である観光地で展開される自然的・社会的・経済的な現象を総合的に検討し、観光地特有の問題・課題や観光地づくりについて概説します。	沖縄の観光について、現状・課題などを幅広く伝えます。この機会に、沖縄についての見識を深めて下さい。

到達目標	本講義の目的は、ゲストとしては楽しい観光であるが、その観光をホスト側の視点に立ち、誘客方法や、受け入れ側の問題や課題を認識し、その対応策を考える能力を身につけることができます。顧客ニーズについても把握できるようになります。
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	シラバスをよく読むこと
	2	沖縄観光の展開と観光客特性	レジュメをよく読むこと
	3	観光資源（自然・人文資源、世界遺産、課題と対応）	同上
	4	観光産業①宿泊施設（ホテル、民宿など）	同上
	5	観光産業②運輸業（航空業、レンタカー、観光バス、クルーズ船など）	同上
	6	観光産業③ダイビングサービス（事業者特性、海面利用問題）	同上
	7	観光産業④旅行業	同上
	8	観光産業⑤テーマパーク、エステ・スパ、ショッピングツーリズム	同上
	9	観光による影響①経済的影響、自然的影響	同上
	10	観光による影響②社会・文化的影響	同上
	11	持続可能な観光①エコツーリズム	同上
	12	持続可能な観光②グリーンツーリズム、ウエルネス、健康保養観光	同上
	13	観光政策①沖縄観光振興計画と振興事業（リゾートウェディングなど）	同上
	14	観光政策②開発規制を目的とした条例と要綱	同上
15	地域の取組み	同上	
16	テスト		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 講義では、その都度レジュメ・資料等を配布する。適宜指示する。 日頃より新聞を読むこと。
-------	--

学びの手立て	私語、授業中の携帯電話は厳禁。講義を受講する上での最低限のマナーは、心得ておくこと。 病気等やむをえない理由による欠席の場合は次の講義で申し出ること。 講義内容をより理解するためには、日頃より新聞をよく読むこと。 また、実際、観光業へ就職したい学生の履修が望まれる。
--------	--

評価	レポート及びテスト（50%）、平常点（50%）を総合的に評価する。
----	-----------------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目として、「観光経済論」、「観光情報論」がある。 実際、宿泊施設や観光地などに足を運び、観光客の動向を自分の目で確かめることが望ましい。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の基地問題A	前期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-屋良 朝博	1年	yaratom0117@hotmail.com	

学びの準備	ねらい 沖縄の米軍基地問題の概要を理解し、客観的なデータ、情報に基づく思考を養う。	メッセージ 新聞を読む習慣をつけよう。基地問題は日々変化するので、国内外の情勢にも関心を持って考えることが重要だ。
	到達目標 メディアなどを通じた情報は限られた紙幅、時間の範囲で切り取りできるように報じられる。断片的な情報をつなぎ合わせながら、変化が激しい沖縄の基地問題を包括的に理解できるようにする。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	米軍基地の形成過程（1）	米軍基地の存在を再確認する。
	3	米軍基地の形成過程（2）	問題の中身を探る。
	4	基地経済	一般公開資料などを検証。
	5	基地をめぐる議論の概要	同上
	6	日米地位協定について	同上
	7	地位協定の国際比較	同上
	8	思いやり予算について	同上
	9	海兵隊の歴史	同上
	10	海兵隊の運用実態	同上
	11	海兵隊の日本駐留の歴史的検証	同上
	12	沖縄県と米軍基地	同上
	13	解決策を思考する	テーマを絞り、問題意識を明確化。
	14	ディベート	同上
	15	総括	
	16		
	テキスト・参考文献・資料など 教科書はありません。		
	学びの手立て 一般的に流布する情報が正しいものかどうかを自己判断できる思考を鍛えてもらいたい。基地問題は賛否さまざままで正解はありません。安全保障や抑止力といった概念理解を必要とする分野だからです。その概念の解釈は時に政治的であり、語る人の政治的立場によって大きな幅があります。それだけに自身で情報の信憑性を見極め、自身の判断、思考を得なければなりません。その能力を身につけるひとつの訓練だと思って受講してください。		
	評価 出席率、期末試験の結果を総合して採点します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 基地問題は古くて新しいテーマであり、実に複雑です。日々変化するニュースを追いかける習慣を身につけてください。それはあらゆるテーマ、出来事で判断を求められた時に役立つはずで
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の基地問題A	後期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-屋良 朝博	1年	yaratom0117@hotmail.com	

学びの準備	ねらい 沖縄の米軍基地問題の概要を理解し、客観的なデータ、情報に基づく思考を養う。	メッセージ 新聞を読む習慣をつけよう。基地問題は日々変化するので、国内外の情勢にも関心を持って考えることが重要だ。
	到達目標 メディアなどを通じた情報は限られた紙幅、時間の範囲で切り取りできるように報じられる。断片的な情報をつなぎ合わせながら、変化が激しい沖縄の基地問題を包括的に理解できるようにする。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	米軍基地の形成過程（1）	米軍基地の存在を再確認する。
	3	米軍基地の形成過程（2）	問題の中身を探る。
	4	基地経済	一般公開資料などを検証。
	5	基地をめぐる議論の概要	同上
	6	日米地位協定について	同上
	7	地位協定の国際比較	同上
	8	思いやり予算について	同上
	9	海兵隊の歴史	同上
	10	海兵隊の運用実態	同上
	11	海兵隊の日本駐留の歴史的検証	同上
	12	沖縄県と米軍基地	同上
	13	解決策を思考する	テーマを絞り、問題意識を明確化。
	14	ディベート	同上
	15	総括	
	16		
	テキスト・参考文献・資料など 教科書はありません。		
	学びの手立て 一般的に流布する情報が正しいものかどうかを自己判断できる思考を鍛えてもらいたい。基地問題は賛否さまざままで正解はありません。安全保障や抑止力といった概念理解を必要とする分野だからです。その概念の解釈は時に政治的であり、語る人の政治的立場によって大きな幅があります。それだけに自身で情報の信憑性を見極め、自身の判断、思考を得なければなりません。その能力を身につけるひとつの訓練だと思って受講してください。		
	評価 出席率、期末試験の結果を総合して採点します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 基地問題は古くて新しいテーマであり、実に複雑です。日々変化するニュースを追いかける習慣を身につけてください。それはあらゆるテーマ、出来事で判断を求められた時に役立つはず。
-------	--

※ポリシーとの関連性 沖縄の基地問題を反・脱植民地主義の観点から、近年高まっている「県外移設論」をめぐる議論を賛否を含めて学びます。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の基地問題A	前期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-知念 ウシ	1年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	いわゆる「沖縄問題」、あるいは「基地問題」と呼ばれるものに対して、近年は盛んに「植民地主義」の観点から議論がなされています。その基本的な議論の枠組みを学びます。	自分の生まれる前から沖縄には基地があり、それが当たり前という感覚がある諸君やそのような自分の感覚がどのようにしてできたのか、またそれがどのような意味を持つのか、を考えたい諸君の参加を待っています。
到達目標	基地問題ばかりではなく、沖縄への差別、植民地主義について理解を深め、自分の身近な事例に差別や植民地主義が存在していることを見抜けるようになります。「ポジショナリティー」と「アイデンティティー」という概念の区別ができるようになります。そして、基地問題での県外移設をめぐる議論の論点、方向性がわかります。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス 沖縄の歴史の中に自分を位置付ける	沖縄の歴史と自分をつなげる
	2	プラトンの洞窟の話	考察したことを書く
	3	米軍ヘリ沖縄国際大学墜落炎上事件について	図書館ヘリ墜落関連コーナーで学ぶ
	4	「県外移設論の歴史」「応分の負担」	参考文献（高橋）
	5	「基地売ります」「普天間基地の大安売り」	参考文献（高橋・知念）
	6	「無意識の植民地主義」	参考文献（野村）
	7	差別論	差別の事例を考える
8	ポジショナリティーとアイデンティティー	参考文献（野村）	
9	「無意識の植民地主義」への共犯	参考文献（野村）	
10	普天間基地を見る	大学近くの第3ゲート前に行く	
11	県外移設論への応答	参考文献（高橋）	
12	県外移設論への批判	参考文献（高橋）	
13	基地引き取り論・運動	新聞資料を読む	
14	琉球独立論と県外移設論	沖縄の独立への賛否について考える	
15	まとめ		
16			
テキスト・参考文献・資料など	1、教科書は使用しません。2、参考文献は以下のとおり。野村浩也『無意識の植民地主義 日本人の米軍基地と沖縄人』御茶の水書房、2005年、知念ウシ『ウシがゆく 植民地主義を探検し、わたしを探す旅』、沖縄タイムス社、2010年、同『シランフーナーの暴力』未来社、2013年、高橋哲哉『沖縄の米軍基地 県外移設を考える』集英社新書、2015年。3、資料は適宜配布します。		
学びの手立て	テレビやインターネットのニュースだけではなく、毎日紙媒体の新聞で、基地問題に関して読み、記事の切り抜きを続けることを求めます。		
評価	評価に関しては、出席、レポート、授業態度、新聞切り抜きの実践、グループ討議、発表、試験、等総合的に判断します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 植民地主義に関して理解を深めたい学生は後期の「沖縄の社会」も引き続き受講してください。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の基地問題B	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-石川 朋子	1年	原則、授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 「基地問題」を基地に隣接する環境で暮らす生活者として考えていく。	メッセージ 沖縄の「基地問題」を学ぶことで、「基地問題」を解決する方法について考えるきっかけになることを期待したい。
	到達目標 沖縄の「基地問題」について理解し、「基地問題」の解決方法について考えることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス	
	2	軍用機墜落と大学	
	3	石川・宮森小学校ジェット機墜落事件と住民生活	関連論文等を紹介する。以下同様
	4	軍用機墜落と住民生活	
	5	軍用地接収と住民	
	6	米軍基地建設と住民	
	7	米軍基地建設と住民	
	8	辺野古基地建設	
9	辺野古基地建設		
10	テスト又はレポート		
11	米軍基地から派生する被害		
12	米軍基地から派生する被害		
13	米軍基地から派生する被害		
14	米軍基地と都市形成		
15	フィールドワーク		
16	フィールドワーク レポート		
	テキスト・参考文献・資料など 特になし。講義は、毎回配布するレジュメと資料に沿って行う。参考文献等は講義のなかで適宜紹介する。ビデオ等の画像等も使用する。		
	学びの手立て 私語等、講義の妨害になる行為は認めない。		
	評価 講義でのリアクションペーパー等を提出してもらおう。それにより出席・講義理解状況等を把握し、レポート、テスト等を総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の基地問題B	後期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大城 尚子	1年	ptt987@oku.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義では「なぜ沖縄に在日米軍基地が集中するのか」という問いを様々な議論から考察し/ていく。それらを踏まえ、受講生は国際的、国内的な視点からその問題を分析し、説明することができるようになることを目的としている。	メッセージ 沖縄の基地問題を人権の視点から考える講義です。
	到達目標 目標① 沖縄の近代史を説明できる。 目標② 沖縄の日本の歴史関係を説明できる。 目標③ 国家の外交政策と国内政策の矛盾を説明できる。 目標④ 安全保障問題と平和の争議を説明できる。 目標⑤ 人権の視点を踏まえ基地問題を説明できる。 目標⑥ インターネットや新聞等で平和問題に関わる事柄の情報収集をすることができる。 目標⑦ 時事問題に関して授業中発言することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	イントロダクション
	2	在沖米軍基地の歴史①
	3	在沖米軍基地の歴史②
	4	米軍基地の歴史
	5	在ディエゴガルシア米軍基地①
	6	在ディエゴガルシア米軍基地②
	7	レポートの課題設定
	8	ハワイの米軍基地①
	9	ハワイの米軍基地②
	10	島嶼における米軍基地の共通点①
	11	島嶼における米軍基地の共通点②
	12	島嶼における米軍基地の共通点③
	13	人権と基地問題①
	14	人権と基地問題②
	15	人権と基地問題③
16	試験	
		時間外学習の内容
		沖縄の近現代史
		沖縄の近現代史
		米軍基地のネットワーク
		在ディエゴガルシア米軍基地
		在ディエゴガルシア米軍基地
		在ハワイ米軍基地
		在ハワイ米軍基地
		植民地主義
		植民地主義
		植民地主義
		自己決定権
		翁長沖縄県知事の国連での発言
		翁長沖縄県知事の国連での発言

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは使用しません。プリントを配布します。 参考文献：知念ウシ『シランフナー(知らんふり)の暴力』未来社、2013年、デヴィッド・ヴァイン著、西村金一監修『米軍基地がやってきたこと』株式会社原書房、2016年、野村浩也『無意識の植民地主義』御茶の水書房、2005年、林博史『米軍基地の歴史—世界ネットワークの形成と展開』吉川弘文館、2011年。
-------	---

学びの実践	学びの手立て 新聞をよく読むこと（特に国際関係、平和、基地、人権など）。私語、携帯電話の使用など周囲に迷惑のかかるような行為はしない。 本講義は基本的に講義形式であるが、できるだけインタラクティブ（教員と学生が双方向にやりとりを行う）授業を目指す。そのうえで、受講生は毎回の授業の予習・復習を行い、講義中に講義内容で不明な点に関する質問と意見を述べてもらう。また、毎回の講義で振り返りシートを講義中に記入してもらい、翌回の授業の冒頭で復習する。
-------	--

学びの実践	評価 出席用紙に講義に関するコメントを書いてもらう。それにより出席状況と授業参加姿勢をみる。レポート、期末試験を総合して判断、評価する。末試験を総合して判断、評価する。出席・授業参加姿勢（30%）、レポート・新聞要約（20+20=40%）、期末試験（30%）沖国ポータルから提出。
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 基地問題に関して賛成・反対という視点からではなくデータを用いた分析、公文書などを使用した政策分析など時事問題とからめた分析能力をつけること。 関連科目：「沖縄の基地問題A」
-------	--

※ポリシーとの関連性 琉球文化圏における芸能の基礎的知識を学び、各地域（シマ・村落）に根付く芸能・祭り・歌謡の特性を知る。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の芸能	前期	土2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	佐々木和子5回、伊藤幸太5回、仲本陽兵5回	1年	授業終了後に教室で受付	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>日常生活空間において、あたかも風景のように存在している沖縄の芸能や歌謡が琉球文化の古層を今に伝える貴重な財産であるということと共に、身近に経験できるものとしてアイデンティティを形成する重要な一つであるということを実感する機会の提供。地域に生きる、または文化を伝える側の人材としての基礎的教養を各地の民俗芸能の事例を学ぶことで身に付けることをねらいとする。</p>	<p>「沖縄」という場所について「芸能」の視点から奄美・沖縄・宮古・八重山の文化圏におけるそれを映像資料や実演等を通して、基礎的知識を習得し、「自分」の生活している沖縄を見つめなおす機会になればと思います。</p>
	到達目標	
	<ul style="list-style-type: none"> ・自らが生活する「沖縄」の文化を知り、芸能における基礎的な知識を専門科目を履修する際の前提として理解することができる。 ・琉球文化圏と各地域における独自の芸能群の存在を基礎知識を基に関連付けて把握することができる。 ・映像資料や実演をとおして芸能に触れることとで、自分と沖縄文化を今の生活と結びつけて考えることができる。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイドダンス／琉球列島(奄美・沖縄・宮古・八重山)の祭りと年中行事の紹介	自身の祭り・芸能体験を思い出す
	2	琉球列島の祭りや芸能と歌謡について	身近な芸能に関係する人に話を聞く
3	琉球列島の歌謡① (祭祀の歌謡)	沖縄の祭りに関心を向けてみる	
4	琉球列島の歌謡② (生活の歌謡)	年中行事について大人に尋ねてみる	
5	琉球列島の歌謡③ (自然と歌謡)	地域伝統の祭りを調べてみる	
6	琉球における歌謡の概要		
7	沖縄の歌謡(琉歌を中心に)		
8	奄美の歌謡		
9	八重山の歌謡(呪禱的・叙事的歌謡)		
10	八重山の歌謡②(抒情的歌謡・節歌等)		
11	宮古諸島の芸能と神祭り		
12	宮古諸島の祭祀歌謡①		
13	宮古諸島の祭祀歌謡②		
14	三線文化と宮古諸島の祭り		
15	宮古民謡の世界		
16	テスト		
	テキスト・参考文献・資料など		
	講義ごとに資料を配布。参考文献等は適時紹介。		
	学びの手立て		
	①「履修の心構え」 毎回、受講後の感想文提出によって出席を確認する。その講義で、自らが考えたこと、感じた事、質問等を記入すること。		
	②「学びを深めるために」 毎回の講義内容と、自らの周辺や生活等が関連付けられることを発見すること、例えば出身地で行われている祭りを調べるなどして受講するとより芸能が身近に感じられ理解が深まります。また、講義受講後にフィールドワークを行うことをお勧めします。		
	評価		
	期末に試験を行う。 規定をこえる遅刻および欠席に関しては単位を認めない。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	「沖縄の文学」「沖縄の民話」「沖縄の言語」等の沖縄科目郡の同時・継続履修。日本文化関連専門科目として「琉球文化論」「琉球文学特殊講義」、古典芸能を学ぶものとして「琉球芸能史」「日本芸能史」。社会文化関連科目専門科目として「南島民俗学」「琉球アジア文化論」等。または沖縄で生活する自己の具体的表現として実演(踊りや三線等)を始める契機としてほしい。

科目基本情報	科目名 沖縄の言語	期別	曜日・時限	単位
	担当者 -仲原 穰	前期	火 2	2
		対象年次 1年	授業に関する問い合わせ 授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 奄美・沖縄では現在も老年層を中心に伝統的なことば（＝琉球語）が使われていますが、若年層は老年層が使う琉球語が理解できず、中年層も琉球語のみで会話できる人はほとんどいません。このままでは、近い将来、琉球語が失われてしまいます。この講義では琉球語の基礎を学び、家庭や地域・社会で学ぶための足がかりにするねらいがあります。	メッセージ 講義が半期と限られているため、琉球語すべてについて詳しくとりあげることができません。3回目以降は「沖縄語」を中心に講義を進めます。講義ではこのほかに琉球語と日本語、現代日本語諸方言との関わり、沖縄のわらべうた・民謡・ことわざ等も取り扱う予定です。
	到達目標 この授業の到達目標は以下の2点です。①まず、一つ目は老年層が話すことば（沖縄語）を約7～8割理解できるようになることです。講義を毎回受講し、事後学習をきちんとすれば、受講前には理解できなかった老年層のことばも受講後にはある程度理解できるようになります。二つ目は、老年層と簡単な会話をおこなえるようになることです。講義では単語から句へ、句から短い文へと学びを進めます。また、講義では、老年層との会話で用いることができる表現も学びます。興味のある表現を覚え、老年層との会話にチャレンジしてください。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	講義ガイダンス／日本祖語と琉球語／琉球語と日本語／挨拶ことば
	2	ハ行音の歴史－日本語と琉球語－／琉球諸語の多様性／琉球語の下位区分
	3	三母音の原則
	4	連母音の融合／子音の口蓋化①②
	5	子音の口蓋化③／「～が」の使い分け／指示語／1拍語の特徴
	6	サ形容詞の終止形・連体形・ヌ形／動詞の終止形
	7	動詞の否定形・命令形・禁止形（ラ行動詞の禁止形も含む）／語中・語尾の「～り」
	8	ア行（イ・ウ）とヤ行（イイ）・ワ行（ウウ）の区別／「～ヤ」の融合
	9	動詞の終止形・連体形の違い／沖縄語の係り結び／「～を」
	10	基礎の確認 / 「～に」 / awaはaa
	11	動詞の志向形・尾略形・連用形／疑問文の作り方
	12	丁寧な言い方（名詞文と形容詞文）
	13	動詞のテ形・継続形・過去形
	14	動詞の過去の否定形・疑問形／サ形容詞の過去形・過去連体形
	15	ナ形容詞／「～で」／三つの「ナ（一）」／動詞の丁寧形
16	期末試験	
時間外学習の内容		
シラバスや配布資料をよく読むこと		
配布資料で琉球語の概説を理解する		
練習問題（宿題）／テキスト1課		
練習問題（宿題）／テキスト1課		
練習問題（宿題）／テキスト1課		
練習問題（宿題）／テキスト2課		
練習問題（宿題）／テキスト2課		
練習問題（宿題）／テキスト3課		
練習問題（宿題）／テキスト3課		
練習問題（宿題）／テキスト4課		
練習問題（宿題）／テキスト4課		
練習問題（宿題）／テキスト5課		
練習問題（宿題）／テキスト5課		
練習問題（宿題）／テキスト6課		
練習問題（宿題）／テキスト7課		

実践	テキスト・参考文献・資料など 【テキスト】 ※テキストは講義で使用します。購入するか、近くの図書館などで借りて手元に準備してください。『沖縄語の入門（CD付改訂版）一たのしいウチナーグチー』（白水社、2006[2000]年） 西岡敏・仲原穰[著]、中島由美・伊狩典子[協力] 【参考文献】『沖縄の言葉と歴史』外間守善著（中公文庫、2000年）『沖縄語辞典－那覇方言を中心に－』内間直仁・野原三義編著（研究社、2006年）『沖縄語辞典』国立国語研究所編（財務省[大蔵省]印刷局、2001[1963]年）
----	--

学びの手立て	この講義は半期で沖縄の言語の基礎について学びます（外国語など他の語学は週2回）。そのため、1回の講義で多くのことを学び、覚えなくてはなりません。欠席がすると講義についていけなくなる可能性が高いので、体調不良などやむを得ない場合以外は、なるべく休まないでください。また、沖縄の老年層のことばは若年層のことばとかなり異なっています。普段使っていることばだから簡単だろう、また、普段から耳にしているから勉強しなくても大丈夫などとあなどることなく、「第2外国語を習得する」ぐらいの気持ちで取り組んでください。事後・事前学習（①講義後にテキストの該当箇所と配布されたプリントを読み返し、宿題の練習問題に取り組む②祖父母や周りで琉球語を話す人々が使用している伝統的なことばに常に関心を持つ）を行うと到達目標に近づきます。※配布した資料は配布順にバインダーなどに入れ、毎時間持参してください。
--------	---

評価	期末試験（75%）＋授業のまとめ[リアクション・ペーパー]の提出（25%）によって評価します
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1)関連科目：「琉球語学概論」（総合文化学科 日本文化学科） (2)次のステージ：講義終了後は、教科書の残りの部分を授業で学んだ要領で読み進めてください。第12課まで学べば、初級どころか、中級レベルまでマスターできます（特に敬語の使用法）。なお、講義では基礎を学ぶことが中心なので、その知識を実際に身につけるために、家庭・地域・社会などで実践し、経験を積んでください。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の言語	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-比嘉 光龍	1年	info@fijabyron.com	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>人種、肌の色、国籍を問わず、うちなー（おきなわ）文化を愛する者は、うちなーんちゅ（おきなわ人）であると堂々と名乗ってほしい。さらにそれを許容できる社会をともに考えたい。</p>	<p>うちなーぐちは方言として扱われてきたが、それは過去のことであり、ユネスコ（国連教育科学文化機関）、またエスノログ（世界的な言語データベース提供機関）などと言った世界の言語を研究する機関は、うちなーぐちを言語だと扱う。うちなーぐちを言語だと当たり前に考え、社会でどう活用していくか、それを生徒たちと一緒に考える授業を行いたい。</p>
到達目標	<p>ユネスコが琉球には6つの危機言語があると発表した。その総称は「琉球諸語」という。本講義ではその琉球諸語のなかの一つの言語である、うちなーぐち（おきなわ語）を扱う。そのうちなーぐちのなかにもいくつかの変種（言語の下位区分）があるが、首里言葉（首里変種）と那覇言葉（那覇変種）を中心に、特に発音を重点的に講義する。例えば「犬（いん）」と「縁（みん）」は発音も表記も違う。表記も何度も書かせ覚えてもらう。また、うちなー大和（やまとう）ぐちという、日本語とうちなーぐちを混ぜた言葉が存在するが、それを本来のうちなーぐちだと誤解している風潮があるのでそれらの区別もしっかり持ってもらう。例えば「おじい」は、本来のうちなーぐちでは、「たんめー（おじいさん）」、「じいちゃん（うすめー）」というようにである。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講師紹介「かじゃでい風」生演奏解説	
	2	琉球諸語とは（島言葉？離島？本島？）「かじゃでい風」生演奏解説2	
	3	自分の姓のうちなー名を知る	
	4	うちなーぐちの発音	
	5	うちなーぐちの発音 その2	
	6	「うちなーやまとうぐち」とは	
	7	「うちなーやまとうぐち」とは その2	
	8	うちなーぐちの挨拶（今日拝なびら）	
	9	うちなーぐちの挨拶その2	
	10	「めんそーれ」ではなく「めんそーれー」	
	11	オ列長音と小文字書き「う」について	
	12	うちなーぐちの表記法	
	13	うちなーぐちの表記法 その2	
	14	琉球・うちなーの歴史	
15	琉球の芸能DVD鑑賞		
16	うちなーぐちの疑問などについて質疑応答		

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>【テキスト】『気持ち伝わる！沖縄語リアルフレーズBook』比嘉光龍[著]（研究社、2015年） 授業毎に配る講師作成プリント 【参考資料】『沖縄語辞典』国立国語研究所編（財務省[大蔵省]印刷局、2001[1963]年）『琉球語辞典』半田一郎[編著]（大学書林、1999年）『伊波普猷全集』全13巻（平凡社、1993[1976]年）『沖縄語辞典—那覇方言を中心に—』内間直仁・野原三義[編著]（研究社、2006年）『沖縄の自己決定権—その歴史的根拠と近未来の展望』琉球新報社・新垣毅[編著]（高文研、2015年）</p>
----	--

学びの手立て	<p>1 講義中はトイレに行かない、居眠りをしない、私語をつつしむ、携帯電話に出ない、などの基本的なことは守ってください。</p> <p>2 講義ではテストは行いません。そのかわりレポートを提出してもらいます。</p> <p>3 講義は、言語を学ぶ講座ですので声を出すことが基本です。何度も発音させるので恥ずかしがらないようにして下さい。</p> <p>4 遅刻2回で一回の欠席扱いにします。</p>
--------	--

評価	<p>毎回リアクションペーパーを書いてもらいその内容次第で最大50パーセントの評価を与える。さらにレポート提出が30パーセント。授業態度が20パーセントとなる。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>次のステージ うちなーぐち（おきなわ語）を言語として捉えることができれば、次第に欧米諸国（カムリー、ハワイ等）の少数民族復興運動の様子が見えてくるだろう。欧米では義務教育に導入するのは当然のことながら、政治や行政、メディアなども使用、実践している。うちなーぐちも当然のように義務教育に導入するべきであり、それを実現させるために行動する意識を持ってもらいたい。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名 沖縄の言語	期別 後期	曜日・時限 火2	単位 2
	担当者 -仲原 穰	対象年次 1年	授業に関する問い合わせ 授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 奄美・沖縄では現在も老年層を中心に伝統的なことば（＝琉球語）が使われていますが、若年層は老年層が使う琉球語が理解できず、中年層も琉球語のみで会話できる人はほとんどいません。このままでは、近い将来、琉球語が失われてしまいます。この講義では琉球語の基礎を学び、家庭や地域・社会で学ぶための足がかりにするねらいがあります。	メッセージ 講義が半期と限られているため、琉球語すべてについて詳しくとりあげることができません。3回目以降は「沖縄語」を中心に講義を進めます。講義ではこのほかに琉球語と日本古語、現代日本語諸方言との関わり、沖縄のわらべうた・民謡・ことわざ等も取り扱う予定です。
	到達目標 この授業の到達目標は以下の2点です。①まず、一つ目は老年層が話すことば（沖縄語）を約7～8割理解できるようになることです。講義を毎回受講し、事後学習をきちんとすれば、受講前には理解できなかった老年層のことばも受講後にはある程度理解できるようになります。二つ目は、老年層と簡単な会話をおこなえるようになることです。講義では単語から句へ、句から短い文へと学びを進めます。また、講義では、老年層との会話で用いることができる表現も学びます。興味のある表現を覚え、老年層との会話にチャレンジしてください。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス／日本祖語と琉球語／琉球語と日本古語／挨拶ことば	シラバスや配布資料をよく読むこと
	2	ハ行音の歴史－日本語と琉球語－／琉球諸語の多様性／琉球語の下位区分	配布資料で琉球語の概説を理解する
	3	三母音の原則	練習問題（宿題）／テキスト1課
	4	連母音の融合／子音の口蓋化①②	練習問題（宿題）／テキスト1課
	5	子音の口蓋化③／「～が」の使い分け／指示語／1拍語の特徴	練習問題（宿題）／テキスト1課
	6	サ形容詞の終止形・連体形・ヌ形／動詞の終止形	練習問題（宿題）／テキスト2課
	7	動詞の否定形・命令形・禁止形（ラ行動詞の禁止形も含む）／語中・語尾の「～り」	練習問題（宿題）／テキスト2課
	8	ア行（イ・ウ）とヤ行（イイ）・ワ行（ウウ）の区別／「～ヤ」の融合	練習問題（宿題）／テキスト3課
	9	動詞の終止形・連体形の違い／沖縄語の係り結び／「～を」	練習問題（宿題）／テキスト3課
	10	基礎の確認／「～に」／awaはaa	練習問題（宿題）／テキスト4課
	11	動詞の志向形・尾略形・連用形／疑問文の作り方	練習問題（宿題）／テキスト4課
	12	丁寧な言い方（名詞文と形容詞文）	練習問題（宿題）／テキスト5課
	13	動詞のテ形・継続形・過去形	練習問題（宿題）／テキスト5課
	14	動詞の過去の否定形・疑問形／サ形容詞の過去形・過去連体形	練習問題（宿題）／テキスト6課
	15	ナ形容詞／「～で」／三つの「ナ（ー）」／動詞の丁寧形	練習問題（宿題）／テキスト7課
16	期末試験		

実践	テキスト・参考文献・資料など 【テキスト】 ※テキストは講義で使用します。購入するか、近くの図書館などで借りて手元に準備してください。『沖縄語の入門（CD付改訂版）一たのしいウチナーグチー』（白水社、2006[2000]年）西岡敏・仲原穰【著】、中島由美・伊狩典子【協力】 【参考文献】『沖縄の言葉と歴史』外間守善著（中公文庫、2000年）『沖縄語辞典－那覇方言を中心に－』内間直仁・野原三義編著（研究社、2006年）『沖縄語辞典』国立国語研究所編（財務省[大蔵省]印刷局、2001[1963]年）
----	---

学びの手立て	この講義は半期で沖縄の言語の基礎について学びます（外国語など他の語学は週2回）。そのため、1回の講義で多くのことを学び、覚えなくてはなりません。欠席がすると講義についていけなくなる可能性が高いので、体調不良などやむを得ない場合以外は、なるべく休まないでください。また、沖縄の老年層のことばは若年層のことばとかなり異なっています。普段使っていることばだから簡単だろう、また、普段から耳にしているから勉強しなくても大丈夫などとあなどることなく、「第2外国語を習得する」ぐらいの気持ちで取り組んでください。事後・事前学習（①講義後にテキストの該当箇所と配布されたプリントを読み返し、宿題の練習問題に取り組む②祖父母や周りで琉球語を話す人々が使用している伝統的なことばに常に関心を持つ）を行うと到達目標に近づきます。※配布した資料は配布順にバインダーなどに入れ、毎時間持参してください。
--------	---

評価	期末試験（75%）＋授業のまとめ[リアクション・ペーパー]の提出（25%）によって評価します。
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1)関連科目：「琉球語学概論」（総合文化学科 日本文化学科） (2)次のステージ：講義終了後は、教科書の残りの部分を授業で学んだ要領で読み進めてください。第12課まで学べば、初級どころか、中級レベルまでマスターできます（特に敬語の使用法）。なお、講義では基礎を学ぶことが中心なので、その知識を実際に身につけるために、家庭・地域・社会などで実践し、経験を積んでください。
-------	--

※ポリシーとの関連性

沖縄を深く知る教養の一つとして、沖縄の考古学に関する知識を得るための科目と位置付ける。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の考古学	前期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮城 弘樹	1年	問い合わせ先は E-mail「h.miyagi@okiu.ac.jp」です。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	考古学は発掘調査を行い、土に埋もれた歴史を掘り起こす学問である。授業では、沖縄を中心とする琉球列島における発掘調査の成果を中心に紹介し、そこからわかる沖縄の歴史について解説する。考古学の学問的特質について理解し、遺跡をとおして歴史を学ぶ。	土に埋もれた沖縄の歴史について、年代を追って順に解説します。
到達目標	沖縄の考古学を理解し、自分の言葉で説明できる。地域の遺跡について理解を深めることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスをよく読むこと
	2	考古学ってどんな学問？	関連記事を配布するので読むこと
	3	琉球列島の地理的、文化的位置	関連記事を配布するので読むこと
4	沖縄の旧石器遺跡	関連記事を配布するので読むこと	
5	奄美・沖縄の先史文化（1）縄文時代並行期	関連記事を配布するので読むこと	
6	奄美・沖縄の先史文化（2）弥生時代～古代並行期	関連記事を配布するので読むこと	
7	宮古・八重山の先史文化	関連記事を配布するので読むこと	
8	琉球列島における農耕のはじまり	関連記事を配布するので読むこと	
9	琉球王国のグスク及び関連遺産群	関連記事を配布するので読むこと	
10	陶磁の道と銭の道	関連記事を配布するので読むこと	
11	墓から知る近世琉球の社会	関連記事を配布するので読むこと	
12	異国船来琉と海底遺跡	関連記事を配布するので読むこと	
13	近代沖縄の山と海の開拓	関連記事を配布するので読むこと	
14	発掘された戦争遺跡	関連記事を配布するので読むこと	
15	※授業のうち1回を各自遺跡見学の課題を与える	課題を提出すること	
16	テスト	復習を怠らないようにすること	
テキスト・参考文献・資料など	テキストは指定しない。 参考文献は講義の中で適宜紹介する。		
学びの手立て	履修上の心構えとして、以下注意していただきたい。 出席確認を毎回厳格に行う。 テレビや新聞記事、インターネット等で紹介される遺跡調査に関するニュースなどに関心をもつこと。		
評価	平常点（20％）。期末試験（80％）。 ※出欠状況については無断欠席5回以上になると「不可」とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 考古学研究によって得られた研究成果を広く教養として身につける。 関連科目としては「沖縄の歴史Ⅰ・Ⅱ」「沖縄の地理」「沖縄戦」。上位科目としては「南島考古学Ⅰ・Ⅱ」「南島先史学Ⅰ・Ⅱ」
-------	---

※ポリシーとの関連性

沖縄を深く知る教養の一つとして、沖縄に関する知識を習得するための科目と位置付ける。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の考古学	後期	木5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮城 弘樹	1年	問い合わせ先は E-mail「h.miyagi@okiu.ac.jp」です。	

学びの準備	ねらい 考古学は発掘調査を行い、土に埋もれた歴史を掘り起こす学問である。授業では、沖縄を中心とする琉球列島における発掘調査の成果を中心に紹介し、そこからわかる沖縄の歴史について解説する。考古学の学問的特質について理解し、遺跡をとおして歴史を学ぶ。	メッセージ 土に埋もれた沖縄の歴史について、年代を迫って順に解説します。
	到達目標 沖縄の考古学を理解し、自分の言葉で説明できる。 地域の遺跡について理解を深めることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスをよく読むこと
	2	考古学ってどんな学問？	関連記事を配布するので読むこと
	3	琉球列島の地理的、文化的位置	関連記事を配布するので読むこと
4	沖縄の旧石器遺跡	関連記事を配布するので読むこと	
5	奄美・沖縄の先史文化（1）縄文時代並行期	関連記事を配布するので読むこと	
6	奄美・沖縄の先史文化（2）弥生～古墳時代並行期	関連記事を配布するので読むこと	
7	宮古・八重山の先史文化	関連記事を配布するので読むこと	
8	琉球列島における農耕のはじまり	関連記事を配布するので読むこと	
9	琉球王国のグスク及び関連遺産群	関連記事を配布するので読むこと	
10	陶磁の道と銭の道	関連記事を配布するので読むこと	
11	墓から知る近世琉球の社会	関連記事を配布するので読むこと	
12	異国船来琉と海底遺跡	関連記事を配布するので読むこと	
13	近代沖縄の山と海の開拓	関連記事を配布するので読むこと	
14	発掘された戦争遺跡	関連記事を配布するので読むこと	
15	※授業のうち1回各自遺跡見学の課題を与える	課題を提出すること	
16	テスト	復習を怠らないようにすること	
	テキスト・参考文献・資料など テキストは指定しない。 参考文献は講義の中で適宜紹介する。		
	学びの手立て 履修上の心構えとして、以下注意していただきたい。 出席確認を毎回厳格に行う。 テレビや新聞記事、インターネット等の遺跡調査に関するニュースなどに関心をもつこと。		
	評価 平常点（20%） 出欠状況については無断欠席5回以上になると「不可」とする。 期末試験（80%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 考古学研究によって得られた研究成果を広く教養として身につける。 関連科目としては「沖縄の歴史Ⅰ・Ⅱ」「沖縄の地理」「沖縄戦」。上位科目としては「南島考古学Ⅰ・Ⅱ」「南島先史学Ⅰ・Ⅱ」
-------	---

※ポリシーとの関連性

沖縄科目群として、沖縄の自然環境、特に地球科学（地形、地質）およびそれに関連した災害について。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の自然環境 I	前期	月 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-渡辺 康志	1年	授業終了後教室にて受け付けます。	

学びの準備	ねらい 沖縄科目群として、沖縄の自然環境、特に地球科学（地形、地質）について習得する。さらにこれらに関連した沖縄の災害についての基礎的知識を学ぶ。講義数日前に講義で使用するパワーポイントデータを公開しますので、webサイトや参考書を利用して、用語などの下調べを行うこと。	メッセージ 沖縄における地球科学および、沖縄で発生する可能性のある災害について学ぼう。
	到達目標 地球科学（地形、地質）やそれらによる自然災害について習得し、沖縄の自然環境を考える基礎知識を習得する。成績評価の方法は、期末試験により判断する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション(講義計画、評価方法等の説明)	シラバスをよく読むこと
	2	地球科学の基礎知識 地球の内部構造	第1回講義テキストppt資料
3	地球科学の基礎知識 プレートテクトニクス	第2回講義テキストppt資料	
4	琉球列島の大地形	第3回講義テキストppt資料	
5	琉球列島の地質	第4回講義テキストppt資料	
6	地震の基礎知識	第5回講義テキストppt資料	
7	琉球列島の地震とプレートテクトニクス	第6回講義テキストppt資料	
8	琉球列島の地殻変動	第7回講義テキストppt資料	
9	津波の基礎知識	第8回講義テキストppt資料	
10	琉球列島の津波災害	第9回講義テキストppt資料	
11	八重山明和大津波	第10回講義テキストppt資料	
12	地球科学の基礎知識 火山	第11回講義テキストppt資料	
13	琉球列島の火山活動	第12回講義テキストppt資料	
14	直下型地震と活断層	第13回講義テキストppt資料	
15	琉球列島の活断層	第14回講義テキストppt資料	
16	期末試験		
	テキスト・参考文献・資料など テキスト 講義数日前に講義で使用するパワーポイントデータを公開します。(アドレスはガイダンスでお知らせします) 参考文献 日本の自然地域編 南の島々 岩波書店 九州の大地とともに 築地書館 沖縄県史 県土のすがた 沖縄県教育委員会		
	学びの手立て 自然科学系の一般教養科目や、沖縄科目群の他の講義を合わせて受講してほしい。		
	評価 講義による基礎知識を習得段階を、期末試験により判断する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 沖縄の自然環境II, および沖縄科目群の他の講義も合わせて受講してほしい。
-------	--

※ポリシーとの関連性

自分の生活する「地域」である「沖縄」の特色ある自然環境について、それを理解するための一般的知識を含めて理解する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名 沖縄の自然環境 I	期別	曜日・時限	単位
	担当者 -廣瀬 孝	前期	金 2	2
		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		1 年	授業終了後、または、thiro@LL.u-ryukyu.ac.jp まで	

学びの準備	ねらい 沖縄は、亜熱帯の環境、サンゴ礁の海、といった非常に特色のある自然環境を持っている。この亜熱帯島嶼環境下にある沖縄の自然環境について、特に自然地理的事象を中心に、それを理解するために必要な周辺知識を織り交ぜ、いろいろな話題を取り上げて話をする。この講義を学ぶことで、地元地域「沖縄」の理解を深めるとともに、ほかの地域との共通性や特異性を見出せるようになる。	メッセージ この講義を学ぶことで、「地域」の自然環境に関心を持つとともに、旅先やテレビなどのメディアで同様の事象に出会った時に気付けるように、常日頃から比較する目でものごとを見るようにしましょう。また、環境問題など、自然環境と私たち人間とのより良い関係性を考えましょう。
	到達目標 1. 亜熱帯島嶼沖縄の自然環境の特徴について、まずは、関心を持つこと。 2. その特徴について、とらえ方（どんな特徴なのか、また、なぜそうなるのか）を理解する。 3. 講義で取り上げなかった場所でも、同じような特徴を持った場所を訪れた時に、その特徴に気づけるようになるよう理解する。 4. これらを達成することで、地元地域「沖縄」の自然環境への理解とともに、ものごとを比較の目で関心を持ってみるができるようになるとともに、人間生活と自然環境との関係性についても考慮することができるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	イントロダクション
	2	沖縄の気候の特徴 ー沖縄は亜熱帯か？ その1
	3	〃 その2
	4	〃 その3
	5	島をとりかこむサンゴ礁 ーサンゴ礁とそのなりたち
	6	〃 ーサンゴ礁の発達
	7	〃 ー沖縄のサンゴ礁 その1
	8	〃 ー沖縄のサンゴ礁 その2
	9	世界でも珍しい特徴を持った島（南北大東島）の話
	10	沖縄に分布する石灰岩とその作る地形 ー石灰岩とカルスト その1
	11	〃 ー石灰岩とカルスト その2
	12	〃 ー円錐カルスト
	13	サンゴ礁地域の地域特性とその変容 その1
	14	〃 その2
	15	まとめ
16	期末試験	
		時間外学習の内容 学びの手立てを参考にしてください 学びの手立てを参考にしてください 学びの手立てを参考にしてください 学びの手立てを参考にしてください 学びの手立てを参考にしてください 学びの手立てを参考にしてください 学びの手立てを参考にしてください 学びの手立てを参考にしてください 学びの手立てを参考にしてください 学びの手立てを参考にしてください 学びの手立てを参考にしてください 学びの手立てを参考にしてください 学びの手立てを参考にしてください 学びの手立てを参考にしてください 学びの手立てを参考にしてください 学びの手立てを参考にしてください

実践	テキスト・参考文献・資料など ”テキストは指定しないが、以下の図書を参考文献として挙げる。 目崎茂和：「琉球弧をさぐる」□あき書房 高橋達郎：「サンゴ礁」□古今書院 サンゴ礁地域研究グループ：「熱い自然」, 「熱い心の島」□古今書院 河名俊男：「琉球列島の地形」新星図書出版 野澤秀樹・堂前亮平・手塚章 編：「日本の地誌10□九州・沖縄」朝倉書店”
----	--

学びの手立て	事前学習 1. 毎授業時間の最後に、以降の授業に関連した「キーワード等」を示すので、それに関して調べる。 2. さらに、調べながら見つかった関連事項についても、興味を持って調べる。 事後学習 1. 授業の内容について、自分なりに整理し理解を深める。 2. 授業に関連するような事柄に、実際の場所やメディア等で出会ったときに、気付くことができるよう、日頃から関心を持ってものごとを捉えること。
--------	--

評価	1. 毎時間の授業終了前にフィードバックペーパーを記入提出し、授業内容について、理解したことを簡潔にまとめる。(30%) 2. 期末試験。(70%) 欠席が多い場合には、期末試験の受験を認めません ※なお、期末試験については、配布したプリントと自作のノートの持ち込みは許可する。※やむを得ない理由で授業を欠席した場合は、欠席届を提出するとともに、その時の活動レポートの提出で、フィードバックペーパーに準ずる扱いをする場合がある。
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 この講義を地元地域である沖縄の自然環境を理解するための取りかかりとして、自分の将来設計や興味関心に合わせて、科目を選択し勉強してください。また、疑問に思ったことは、わからないままにせず、なるべく速やかに自分なりの理解をするように心がけてください。
-------	--

※ポリシーとの関連性

自分の生活する「地域」である「沖縄」の特色ある自然環境について、それを理解するための一般的知識を含めて理解する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名 沖縄の自然環境Ⅱ	期別 後期	曜日・時限 火1	単位 2
	担当者 -廣瀬 孝	対象年次 1年	授業に関する問い合わせ 授業終了後、または、thiro@LL.u-ryukyu.ac.jp まで	

学びの準備	ねらい 沖縄は、亜熱帯の環境、サンゴ礁の海、といった非常に特色のある自然環境を持っている。この亜熱帯島嶼環境下にある沖縄の自然環境について、特に自然地理学的事象を中心に、それを理解するために必要な周辺知識を織り交ぜ、いろいろな話題を取り上げて話をする。この講義を学ぶことで、地元地域「沖縄」の理解を深めるとともに、ほかの地域との共通性や特異性を見出せるようになる。	メッセージ この講義を学ぶことで、「地域」の自然環境に関心を持つとともに、旅先やテレビなどのメディアで同様の事象に出会った時に気付けるように、常日頃から比較する目でものごとを見るようにしましょう。また、環境問題など、自然環境と私たち人間とのより良い関係性を考えましょう。
	到達目標 1. 亜熱帯島嶼沖縄の自然環境の特徴について、まずは、関心を持つこと。 2. その特徴について、とらえ方（どんな特徴なのか、また、なぜそうなるのか）を理解する。 3. 講義で取り上げなかった場所でも、同じような特徴を持った場所を訪れた時に、その特徴に気づけるようになるよう理解する。 4. これらを達成することで、地元地域「沖縄」の自然環境への理解とともに、ものごとを比較の目で関心を持ってみるができるようになるとともに、人間生活と自然環境との関係性についても考慮することができるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		時間外学習の内容
	回	テーマ	
	1	イントロダクション	学びの手立てを参考にしてください
	2	琉球列島の水文環境 一水文学と水収支	学びの手立てを参考にしてください
	3	〃 一沖縄の水資源と水利用	学びの手立てを参考にしてください
	4	〃 一石灰岩地域の水の流れと水利用	学びの手立てを参考にしてください
	5	〃 一地下ダム	学びの手立てを参考にしてください
	6	沖縄の土壌 一岩石の風化と赤い土	学びの手立てを参考にしてください
	7	地形改変（開発）と赤土流出 その1	学びの手立てを参考にしてください
	8	〃 その2	学びの手立てを参考にしてください
	9	〃 その3	学びの手立てを参考にしてください
	10	沖縄の海岸 一砂浜	学びの手立てを参考にしてください
	11	〃 一岩石海岸とノッチ	学びの手立てを参考にしてください
	12	沖縄の島分類とその特徴 一高島と低島 その1	学びの手立てを参考にしてください
	13	〃 その2	学びの手立てを参考にしてください
	14	〃 その3	学びの手立てを参考にしてください
15	まとめ	学びの手立てを参考にしてください	
16			

実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは指定しないが、以下の図書を参考文献として挙げる。 目崎茂和：「琉球弧をさぐる」〔あき書房〕 高橋達郎：「サンゴ礁」〔古今書院〕 サンゴ礁地域研究グループ：「熱い自然」, 「熱い心の島」〔古今書院〕 河名俊男：「琉球列島の地形」新星図書出版 野澤秀樹・堂前亮平・手塚〔草編〕：「日本の地誌10〔九州・沖縄〕朝倉書店
----	--

学びの手立て	事前学習 1. 毎授業時間の最後に、以降の授業に関連した「キーワード等」を示すので、それに関して調べる。 2. さらに、調べながら見つかった関連事項についても、興味を持って調べる。 事後学習 1. 授業の内容について、自分なりに整理し理解を深める。 2. 授業に関連するような事柄に、実際の場所やメディア等で出会ったときに、気付くことができるよう、日頃から関心を持ってものごとを捉えること。
--------	--

評価	1. 毎時間の授業終了前にフィードバックペーパーを記入提出し、授業内容について、理解したことを簡潔にまとめる。(30%) 2. 期末試験。(70%) 欠席が多い場合には、期末試験の受験を認めません ※なお、期末試験については、配布したプリントと自作のノートの持ち込みは許可する。※やむを得ない理由で授業を欠席した場合は、欠席届を提出するとともに、その時の活動レポートの提出で、フィードバックペーパーに準ずる扱いをする場合がある。
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 この講義を地元地域である沖縄の自然環境を理解するための取りかかりとして、自分の将来設計や興味関心に合わせて、科目を選択し勉強してください。また、疑問に思ったことは、わからないままにせず、なるべく速やかに自分なりの理解をするように心がけてください。
-------	--

※ポリシーとの関連性 沖縄科目群として、沖縄の自然環境、特に地球科学（地形、地質）およびそれに関連した災害について。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の自然環境Ⅱ	後期	月1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-渡辺 康志	1年	授業終了後教室にて受け付けます。	

学びの準備	ねらい 沖縄科目群として、沖縄の自然環境、特に地球科学（気候、地形、土壌）について習得する。さらにこれらに関連した沖縄の災害や特徴的な自然環境についての基礎的知識を学ぶ。講義数日前に講義で使用するパワーポイントデータを公開しますので、webサイトや参考書を利用して、用語などの下調べを行うこと。	メッセージ 沖縄における自然環境について学ぼう。
	到達目標 地球科学（気候、地形、土壌）やそれらによる自然災害、特徴的な沖縄の環境について習得し、沖縄の自然環境を考える基礎知識を習得する。成績評価の方法は、期末試験により判断する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション(講義計画、評価方法等の説明)	シラバスをよく読むこと
	2	地球科学の基礎知識 地球の歴史	第1回講義テキストppt資料
	3	地球生成期の天体衝突と地球環境	第2回講義テキストppt資料
	4	気候・気象の基礎知識	第3回講義テキストppt資料
	5	地球の古気候と氷河時代	第4回講義テキストppt資料
	6	琉球列島のサンゴ礁	第5回講義テキストppt資料
	7	琉球列島のカルスト地形	第6回講義テキストppt資料
	8	石灰岩地域の地下水	第7回講義テキストppt資料
9	沖縄丘陵地の地形改変と造成地	第8回講義テキストppt資料	
10	地形改変と内水氾濫	第9回講義テキストppt資料	
11	極端化する気候と琉球列島	第10回講義テキストppt資料	
12	土石流と深層崩壊	第11回講義テキストppt資料	
13	沖縄の地すべり	第12回講義テキストppt資料	
14	岩盤の風化と土壌	第13回講義テキストppt資料	
15	沖縄の赤土流出	第14回講義テキストppt資料	
16	期末試験		
実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト 講義数日前に講義で使用するパワーポイントデータを公開します。（アドレスはガイダンスでお知らせします） 参考文献 日本の自然地域編 南の島々 岩波書店 九州の大地とともに 築地書館 沖縄県史 県土のすがた 沖縄県教育委員会		
	学びの手立て 自然科学系の一般教養科目や、沖縄科目群の他の講義を合わせて受講してほしい。		
	評価 講義による基礎知識を習得段階を、期末試験により判断する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 沖縄の自然環境Ⅰ，および沖縄科目群の他の講義も合わせて受講してほしい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の社会	前期	金2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-具志堅 邦子	1年	講義終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義では、沖縄の社会における「近代化の過程」に焦点をあてながら、現在の沖縄の社会について考察する。私たちが自明だと思っている「沖縄らしさ」を表象するものが、近代化の過程によってつくられた比較的新しい出来事であることを確認し、「構造」を探る。そのような作業により沖縄の社会の可能性を発見していく。	過去を振り返ることは未来を切り開くことです。沖縄の社会をステレオタイプ化させない、そして容易く消費させないために、一緒に学びましょう。
到達目標	沖縄の社会の表象や出来事を「神話的思考」「ブリコラージュ」「非時間性」「シマ社会」「第二のシマ社会」「連結都市圏」「想像の共同体」などのキーワードで語れるようになる。特にエイサーという表象をそれらのキーワードで語り、意味づけを深くしていくことができるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイドダンス、近代と沖縄らしさ	シラバスをよく読んでください
	2	浜下りと雛祭り	配布された配布資料を読み返す
	3	沖縄の社会の構造	現代のシマ社会を発見する
	4	神話的思考と歴史的思考	ブリコラージュを探す
	5	観察するものを観察する	配布された配布資料を読み返す
	6	ナショナリズムと沖縄	配布された配布資料を読み返す
	7	ウチナーンチュの誕生	仮説的な展開に慣れる
	8	連結都市圏と第二のシマ社会	鳥の眼、虫の眼で沖縄の社会をみる
	9	コミュニティ	配布された配布資料を読み返す
	10	守姉という存在	守姉経験者を探してみる
	11	沖縄における非時間性	配布された配布資料を読み返す
	12	異風な者とチョンダラー	知の考古学的思考にチャレンジする
	13	似せ念仏からエイサーへの変換	モーアシビのイメージを塗り替える
14	連結都市圏と太鼓型エイサー	戦後のダイナミズムを感じる	
15	新しいことが古いと感じられるパラドックス	パラドックスに慣れる	
16	テスト		
テキスト・参考文献・資料など	テキストの指定ありません。講義内容は印刷して配布します。配布資料には引用・参考文献を提示していますが、講義の理論となっている主な参考文献は次のとおりです。①クロード・レヴィ＝ストロース『野生の思考』（1976年、みすず書房） ②ベネディクト・アンダーソン『増補想像の共同体』（1983＝1997年、NTT出版） ③マックス・ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』（1989年、岩波文庫） ④真木悠介『時間の比較社会学』（2003年、岩波現代文庫）		
学びの手立て	「大きな物語」は終焉したという前提で講義は展開します。したがって、ポストモダンの沖縄の社会をみていきます。「大きな物語」という夢から醒めたい学生の受講を望みます。毎回の講義の積み重ねで得られる視点ですから、できるかぎり欠席しないことがスキルのひとつです。		
評価	毎回、発見だったこと、感じたこと、考えたことをリアクション・ペーパーに書いて提出します。提出されたリアクション・ペーパーで出席と評価をします。16回目のテストでは総合的な力を問う問題を課します。リアクション・ペーパー（70%）、テスト（30%）。欠席回数は学務規定を参考にしてください。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 参考文献は配布資料の引用において噛み砕いていますが、一冊でも読破することによって次のステージにいけます。挑戦してみてください。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の社会	後期	金2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-具志堅 邦子	1年	講義終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義では、沖縄の社会における「近代化の過程」に焦点をあてながら、現在の沖縄の社会について考察する。私たちが自明だと思っている「沖縄らしさ」を表象するものが、近代化の過程によってつくられた比較的新しい出来事であることを確認し、「構造」を探る。そのような作業により沖縄の社会の可能性を発見していく。	過去を振り返ることは未来を切り開くことです。沖縄の社会をステレオタイプ化させない、そして容易く消費させないために、一緒に学びましょう。
到達目標	沖縄の社会の表象や出来事を「神話的思考」「ブリコラージュ」「非時間性」「シマ社会」「第二のシマ社会」「連結都市圏」「想像の共同体」などのキーワードで語れるようになる。特にエイサーという表象をそれらのキーワードで語り、意味づけを深くしていくことができるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス、近代と沖縄らしさ	シラバスをよく読んでください
	2	浜下りと雛祭り	配布された配布資料を読み返す
	3	沖縄の社会の構造	現代のシマ社会を発見する
	4	神話的思考と歴史的思考	ブリコラージュを探す
	5	観察するものを観察する	配布された配布資料を読み返す
	6	ナショナリズムと沖縄	配布された配布資料を読み返す
	7	ウチナーンチュの誕生	仮説的な展開に慣れる
	8	連結都市圏と第二のシマ社会	鳥の眼、虫の眼で沖縄の社会をみる
	9	コミュニティ	配布された配布資料を読み返す
	10	守姉という存在	守姉経験者を探してみる
	11	沖縄における非時間性	配布された配布資料を読み返す
	12	異風な者とチョンダラー	知の考古学的思考にチャレンジする
	13	似せ念仏からエイサーへの変換	モーアシビのイメージを塗り替える
	14	連結都市圏と太鼓型エイサー	戦後のダイナミズムを感じる
15	新しいことが古いと感じられるパラドックス	パラドックスに慣れる	
16	テスト		

テキスト・参考文献・資料など

テキストの指定ありません。講義内容は印刷して配布します。配布資料には引用・参考文献を提示していますが、講義の理論となっている主な参考文献は次のとおりです。①クロード・レヴィ＝ストロース『野生の思考』（1976年、みすず書房） ②ベネディクト・アンダーソン『増補想像の共同体』（1983＝1997年、NTT出版） ③マックス・ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』（1989年、岩波文庫） ④真木悠介『時間の比較社会学』（2003年、岩波現代文庫）

学びの手立て

「大きな物語」は終焉したという前提で講義は展開します。したがって、ポストモダンの沖縄の社会をみていきます。「大きな物語」という夢から醒めたい学生の受講を望みます。毎回の講義の積み重ねで得られる視点ですから、できるかぎり欠席しないことがスキルのひとつです。

評価

毎回、発見だったこと、感じたこと、考えたことをリアクション・ペーパーに書いて提出します。提出されたリアクション・ペーパーで出席と評価をします。16回目のテストでは総合的な力を問う問題を課します。リアクション・ペーパー（70%）、テスト（30%）。欠席回数は学務規定を参考にしてください。

学びの継続

次のステージ・関連科目

参考文献は配布資料の引用において噛み砕いていますが、一冊でも読破することによって次のステージにいけます。挑戦してみてください。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の社会	後期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-知念 ウシ	1年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>昨今の沖縄社会では、「しまくとぅばの日」が県議会の条例によって定められたり、「シマクトゥバ」復興運動がさかんになっています。そのような言語の問題を歴史的文脈とその持つべき方向性について、反/脱植民地主義の観点から検討します。</p>	<p>現在の沖縄社会では、日本語をあたり前のように話しますが、このことは本当に当然の自然なことなのでしょうか。そのことへの違和感があるという学生も、そんなことを考えたこともないという学生も、もちろん、それ以外の興味をもって、受講する学生諸君を歓迎します。</p>
到達目標	<p>沖縄で日本語を話すのは当たり前ではない、ということがわかるかもしれません。植民地主義というものへの理解が深まるかもしれません。自分の祖先の言葉が話したくなるかもしれません。沖縄の言語問題は、沖縄だけではなく、世界の植民地の、普遍的な問題だとわかるかもしれません。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	沖縄の歴史の中に自分を位置付ける
	2	吉屋チルーの映画をみる	シマクトゥバの映画、芝居をみる
	3	感想をグループで話し合う	感想を書く
	4	シマクトゥバの復興とは何か	グループ討議の結果を書く
	5	フランツ・ファノン	参考文献 (ファノン)
	6	同化とは何か	参考文献 (ファノン)
	7	グギ・ワ・ジオンゴ	参考文献 (ジオンゴ)
8	精神の脱植民地化とは何か	参考文献 (ジオンゴ)	
9	差別理論	参考文献 (ジオンゴ)	
10	無意識の植民地主義	参考文献 (野村)	
11	無意識の植民地主義への共犯	参考文献 (野村)	
12	見えない方言札	参考文献 (知念)	
13	映画を植民地主義と言語問題の観点からみる	新聞関連切り抜きまとめ読み	
14	映画の反/脱植民地主義の観点からの分析・批評	まとめに向けて新聞記事切り抜き	
15	まとめ	まとめ	
16			
テキスト・参考文献・資料など	<p>1、テキストは用いません。2、参考文献は以下のとおりです。グギ・ワ・ジオンゴ『精神の非植民地化 アフリカ文学における言語の政治学』第三書館、2010年。フランツ・ファノン『黒い皮膚・白い仮面』みすず書房。野村浩也『無意識の植民地主義 日本人の米軍基地と沖縄人』御茶の水書房、2005年。3、資料は適宜配布します。</p>		
学びの手立て	<p>みずからの言語への興味はなにか、どこからくるか明らかにしてください。沖縄の新聞のシマクトゥバ関連の記事は必読です。切り抜きをしてください。</p>		
評価	<p>評価に関しては、出席、レポート、授業態度、新聞切り抜きの実践、グループ討議、発表、試験等、総合的に判断します。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>自分の親や祖父母から、シマクトゥバを学んでください。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の宗教	前期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	加治 順人	1年	授業前後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>沖縄で信仰されているさまざまな宗教・信仰について広く全体的な知識を獲得する。単なる教養や知識としてではなく、現在もお私たちの社会や文化に深く根差している価値観や慣習として理解を深めることで、各々の専門分野や職業生活を豊かなものにしてほしい。また、授業で学んだことを身近な事例と関連づけて掘り下げ、レポートの形で考察をまとめてもらう。</p>	<p>講師は沖縄県護国神社の神職を本業とし、その経験をもとに具体的な事例を盛り込んで、沖縄の民間信仰（マブイ、ユタ、ノロ、火の神、位牌）や外来宗教（仏教、神道、道教、キリスト教、新宗教）などについて歴史・理論・実践をわかりやすく解説します。</p>
到達目標	<p>沖縄に暮らす者にとって身近な信仰や宗教のありようを知ることで、沖縄の文化や歴史への理解を深め、これからの生活にいかすことができるようになる。それは単に「伝統」や「慣習」なるものの「正しさ」を知って従うことを意味するわけではない。何が宗教や信仰や文化の「本質」であるかを自分の頭で理解して、自分にとって何が必要で何が不要か、何が自分を支えるのか、何が自分を呪縛し脅かすものかを判断し、取捨選択できる賢い社会人になることが長期的な目標である。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	沖縄固有の信仰（セヂとマブイ）	指定した資料を事前に読む
3	沖縄固有の信仰（ユタ）	同上	
4	沖縄固有の信仰（ノロ）	同上	
5	沖縄固有の信仰（火の神）	同上	
6	沖縄固有の信仰（位牌）	同上	
7	沖縄固有の信仰（墓と葬制）	同上	
8	沖縄固有の信仰（御嶽信仰）	同上	
9	沖縄固有の信仰（イザイホー）	同上	
10	沖縄の年中行事	同上	
11	外来宗教（仏教）	同上	
12	外来宗教（神道）	同上	
13	外来宗教（道教）	同上	
14	外来宗教（キリスト教）	同上	
15	外来宗教（新宗教）	同上	
16	まとめ	レポートを作成する	
実践	テキスト・参考文献・資料など	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストは使用しない。参考文献を紹介することがある。 ・適宜プリント資料を配布する。 	
	学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・私語厳禁。受講者が多い大教室の授業なので、授業の妨げになる私語は退席を求めます。 ・授業期間中に何度か小レポートを書いてもらいます。 ・配布資料には必ず目を通していき、紹介した文献もなるべく読んでもらいたい。 ・「沖縄の歴史」を事前に受講しておくことが望ましい。 ・社会文化学科（民俗学専攻）の学生は1年次に受講することが望ましい。 	
	評価	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学期末レポート（70%） 2. 小レポート（30%） 3. 出席点は原則として加味しないが、欠席が5回以上になると「不可」とする。 	

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目として「沖縄の民俗」を受講することを勧めたい。宗教や信仰について、「伝統」や迷信に惑わされない判断力を身につけてもらいたい。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の宗教	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-加治 順人	1年	授業前後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>沖縄で信仰されているさまざまな宗教・信仰について広く全体的な知識を獲得する。単なる教養や知識としてではなく、現在もなお私たちの社会や文化に深く根差している価値観や慣習として理解を深めることで、各々の専門分野や職業生活を豊かなものにしてほしい。また、授業で学んだことを身近な事例と関連づけて掘り下げ、レポートの形で考察をまとめてもらう。</p>	<p>講師は沖縄県護国神社の神職を本業とし、その経験をもとに具体的な事例を盛り込んで、沖縄の民間信仰（マブイ、ユタ、ノロ、火の神、位牌）や外来宗教（仏教、神道、道教、キリスト教、新宗教）などについて歴史・理論・実践をわかりやすく解説します。</p>
到達目標	<p>沖縄に暮らす者にとって身近な信仰や宗教のありようを知ることで、沖縄の文化や歴史への理解を深め、これからの生活にいかすことができるようになる。それは単に「伝統」や「慣習」なるものの「正しさ」を知って従うことを意味するわけではない。何が宗教や信仰や文化の「本質」であるかを自分の頭で理解して、自分にとって何が必要で何が不要か、何が自分を支えるのか、何が自分を呪縛し脅かすものかを判断し、取捨選択できる賢い社会人になることが長期的な目標である。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	指定した資料を事前に読む
2	沖縄固有の信仰（セヂとマブイ）	同上	
3	沖縄固有の信仰（ユタ）	同上	
4	沖縄固有の信仰（ノロ）	同上	
5	沖縄固有の信仰（火の神）	同上	
6	沖縄固有の信仰（位牌）	同上	
7	沖縄固有の信仰（墓と葬制）	同上	
8	沖縄固有の信仰（御嶽信仰）	同上	
9	沖縄固有の信仰（イザイホー）	同上	
10	沖縄の年中行事	同上	
11	外来宗教（仏教）	同上	
12	外来宗教（神道）	同上	
13	外来宗教（道教）	同上	
14	外来宗教（キリスト教）	同上	
15	外来宗教（新宗教）	同上	
16	まとめ	レポートを作成する	
テキスト・参考文献・資料など	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストは使用しない。参考文献を紹介することがある。 ・適宜プリント資料を配布する。 		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・私語厳禁。受講者が多い大教室の授業なので、授業の妨げになる私語は退席を求めます。 ・授業期間中に何度か小レポートを書いてもらいます。 ・配布資料には必ず目を通していき、紹介した文献もなるべく読んでもらいたい。 ・「沖縄の歴史」を事前に受講しておくことが望ましい。 ・社会文化学科（民俗学専攻）の学生は1年次に受講することが望ましい。 		
評価	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学期末レポート（70%） 2. 小レポート（30%） 3. 出席点は原則として加味しないが、欠席が5回以上になると「不可」とする。 		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目として「沖縄の民俗」を受講することを勧めたい。宗教や信仰について、「伝統」や迷信に惑わされない判断力を身につけてもらいたい。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の政治	前期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-宮城 修	1年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	主に戦後、沖縄がアメリカに統治されていた時代（1945～1972年）を扱います。さまざまな権利が制限される中で、沖縄住民が自治権の獲得や主席公選、施政権返還（日本復帰）を求めて行動した過程を学ぶことで、「沖縄の政治」について理解を深める。	ことしは18歳選挙権がスタートします。「沖縄の政治」を通じて、民主主義の根幹ともいえる選挙を身近に感じてほしい。
到達目標	本講義は毎回、新聞、映像、外交文書などの一次資料を用意します。これらの資料を読み込んで、政治に関心を持つことを目標としています。毎回資料を読み込み感想を提出するので、短時間で自分の考えがまとめられるようになります。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイドランス／新聞を読む	新聞、配付資料の読み込み
	2	新聞を読む／個別テーマ：忘れられた島	同上
	3	新聞を読む／個別テーマ：太平洋の要石	同上
	4	新聞を読む／個別テーマ：不屈の政治家	同上
	5	新聞を読む／個別テーマ：島ぐるみ闘争	同上
	6	新聞を読む／個別テーマ：復帰協発足	同上
	7	新聞を読む／個別テーマ：立法院選挙	同上
	8	新聞を読む／個別テーマ：教公2法	同上
	9	新聞を読む／個別テーマ：戦争と新聞	同上
	10	新聞を読む／個別テーマ：2・4ゼネスト	同上
	11	新聞を読む／個別テーマ：コザ騒動	同上
	12	新聞を読む／個別テーマ：プロジェクト112	同上
	13	新聞を読む／個別テーマ：国政参加	同上
14	新聞を読む／個別テーマ：毒ガス移送	同上	
15	新聞を読む／個別テーマ：沖国大ヘリ墜落	同上	
16	予備日	同上	
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	授業の中で紹介します。主なテキストは『一条の光 屋良朝苗日記』（琉球新報社、2015年）、櫻澤誠著『沖縄現代史』（中公新書、2015年）、中野好夫、新崎盛暉著『沖縄戦後史』（岩波新書、1976年）など。		
	学びの手立て		
	授業の中で紹介します。主なテキストは『一条の光 屋良朝苗日記』（琉球新報社、2015年）、櫻澤誠著『沖縄現代史』（中公新書、2015年）、中野好夫、新崎盛暉著『沖縄戦後史』（岩波新書、1976年）など。		
	評価		
	毎回提出する感想、期末レポートで評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目として「沖縄の基地問題A」「沖縄の歴史Ⅱ（近現代）」「沖縄戦」
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の地理	前期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小川 護	1年	メールでお願いします。 ogawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 琉球列島や沖縄本島をはじめとする、亜熱帯地域「沖縄」における自然環境と人々の生活、文化、産業などについて、地理学の立場からアプローチを行う。講義は郷土「沖縄」が理解しやすいように、パワーポイントやVTRなどの映像資料を活用しながらやさしく行う予定である。	メッセージ 日頃から沖縄に関する出来事について、地図の上で確認する習慣を身につけてください。
	到達目標 沖縄の自然環境、社会文化、経済活動について関心をもち、将来のあるべき沖縄県の姿について探求するモチベーションをもってもらう。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 1. 沖縄の地理的位置とその概観 2. 沖縄の自然環境-地形と土壌 3. 沖縄の気候 4. 沖縄の農業 5. 沖縄の鉱工業 6. 沖縄の水産業 6. 沖縄の商業と交通 7. 沖縄の都市地域 8. 沖縄の村落地域 9. 沖縄の人口移動と移民 10. 離島地域の自然と人々の暮らし(宮古島) 11. 離島地域の自然と人々の暮らし(八重山) 13. 沖縄の地名と集落 14. 沖縄の基地問題 15. これからの沖縄
	テキスト・参考文献・資料など とくになし。 仲田邦彦(2009)沖縄県の地理、編集工房東洋企画。 中山満、堂前亮(1983)沖縄の地理 島の自然と生活 新星出版社 シリーズ：日本の地誌 10 九州・沖縄 朝倉書店
	学びの手立て 沖縄県の地図(できたら中学校、高校で使用した地図帳が望ましい)を準備してください。そして、授業で習った事柄について、地図上で確認、整理を行ってください。
	評価 出席状況(講義回数分の1/3以下は単位不可)と数回のレポート提出および試験で総合的に判断する。

学びの継続	次のステージ・関連科目 共通科目:地理学Ⅰ、地理学Ⅱ
-------	-------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の地理	後期	木5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	崎浜 靖	1年	sakihama@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義では、沖縄の自然・文化に関わる地理的事象について、島嶼地理学の視点から講義を進める予定である。とくにここ沖縄では、亜熱帯特有の特異な自然環境のなかで、それに適応しながら多様な文化が生み出されている。本講義では、人々の暮らしの変化から、自然と人間の関係、そして「島嶼」としての「沖縄」を考えてみたい。	メッセージ 沖縄県における多様な地理的環境について、地図資料、スライド・映像資料を用いながら、わかりやすく講義します。
	到達目標 沖縄県の多様な地理的環境を理解する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	沖縄の地理的位置	事前に配ったプリントを読むこと
	2	沖縄の自然地理①－気候・気象－	同上
	3	沖縄の自然地理②－地形・地質・土壌－	同上
	4	沖縄の自然地理③－水文環境と水利用－	同上
	5	沖縄の文化地理①－村落の景観－	同上
	6	沖縄の文化地理②－村落の社会構造－	同上
	7	沖縄の文化地理③－村落空間と地名表記－	同上
	8	沖縄の社会地理①－都市空間（沖縄コナベーション）の形成－	同上
9	沖縄の社会地理②－都市への人口移動－	同上	
10	沖縄の社会地理③－離島の地域構造－	同上	
11	宮古諸島の地誌①	同上	
12	宮古諸島の地誌②	同上	
13	八重山諸島の地誌①	同上	
14	八重山諸島の地誌②	同上	
15	大東諸島の地誌	同上	
16	試験		
	テキスト・参考文献・資料など 【テキスト】 ・特に指定はない。毎回、プリントを配布する。 【参考文献】 ・講義の中で適宜紹介する。		
	学びの手立て ・講義中に課題を出す場面が多くあり、時間内で提出すること。		
	評価 ・定期テスト（60点） ・平常点：講義中の課題提出（40点）（出席状況については、無断欠席が5回以上になると「不可」となる）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ・全国の中で、現在の沖縄県の「位置」が理解できる。他の沖縄関係科目と関連づけて学ぶと理解が深まる。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の地理	後期	月1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-上原 富二男	1年	uehara@okinawa-u.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>日本は島国ですが、その最西端に位置するのが沖縄県です。沖縄県を構成する島じまは、本州、北海道、九州、四国の四島に比べると圧倒的に小さい。しかし、その有する地理学的特性と多様性には、勝るとも劣らないものがあります。この地理学的特性と多様性について自然地理学と人文地理学の視座から考えます。</p>	<p>皆さんの沖縄についての興味や関心は何だろう。小さな島からなる沖縄県ではあるが、小さいからこそ大きな世界の理解につながるということ。すなわち小さな沖縄県の大きなパワーを、この授業で確認できれば幸いである。</p>
到達目標	<p>沖縄県の小さな島の自然地理学ならびに人文地理学的特徴に基づいて、国内および大陸の自然地理学ならびに人文地理学的徴を理解できるようにする。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		時間外学習の内容
	回	テーマ	
	1	花綵列島の歌	文学の中の地理学を探そう。
	2	しまと島	沖縄の山を確認しよう。
	3	ユイムンの海（1）－サンゴ礁の自然	安全にサンゴ礁を歩いてみよう。
	4	ユイムンの海（2）－サンゴ礁の暮らし	自分のサンゴ礁体験を思いだそう。
	5	うるまの島の形成（1）－陸に上がったサンゴ礁	身近な階段状の地形を確認しよう。
	6	うるまの島の変動（2）－環太平洋造山帯の証	身近な断層崖に触れてみよう。
	7	按司の城と港－メサと三角江	牧港川周辺の城を確認しよう。
8	むらとまち（1）－御嶽のむら	宜野湾市の集落を訪ねてみよう。	
9	むらとまち（2）－系図とマラリアのむら	八重山のツィンダラ節を聞こう。	
10	むらとまち（3）－まちとコナベーション	基地門前の事業所を調べてみよう。	
11	菊とサトウキビ－沖縄のアグリカルチャー	各地の農村を訪ねてみよう。	
12	鉄筋と花織－沖縄の産業革命	各地の工場、工房を訪ねてみよう。	
13	琉米親善の日－ペリーと琉球・沖縄沖縄	那覇市の外人墓地を訪ねてみよう。	
14	Keystone of the Pacific－沖縄の基地	その理不尽さを確認しよう。	
15	ヤマチッチャン－沖縄の環境問題	環境問題の二面性を考えてみよう。	
16	総括－期末試験		
テキスト・参考文献・資料など	<p>この講義に関するテキストはありませんが、河名俊男『琉球列島の地形』、仲田邦彦著『沖縄の地理』、仲松弥秀著『神と村』、Flint et.al「Military geology of Okinawa, Ryukyu retto, vol. V」などを参考にしてください。</p>		
学びの手立て	<p>沖縄に関心をもつことが重要であることは、言うまでもありませんが、したがって、授業の内容を常に自身で確かめる努力が肝要です。</p>		
評価	<p>期末試験70%、レポート15%、授業への取り組み15%の100点満点で評価する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>この授業の履修後は、皆さん自身の興味・関心の発展と整理を図るべく、より専門の講義を受講してください。なお、授業終了後も質問には対応します。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性 沖縄で展開された美術を通して、地域性と国際性を考え、素養を身につける。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の美術・工芸	後期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-花城 郁子	1年	ptt709@oku.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	琉球王国、沖縄の近・現代美術を通して、外部からの影響により内なる気づきをどのように表現してきたかを、美術作品を通して学ぶ。毎回行うリアクション・ペーパーを描く・書くことで、自身の表現力を確認しながら作品鑑賞能力を高める。	美術を技術・技能のみではなく、社会や時代の表象としてとらえ、その時に生きた人々がどのように表現したかを考えるクラス。美術に興味ある学生、苦手意識を持つ学生も共に考えていく場とする。

到達目標
美術そのものの知識、他国や違う時代の美術と接しながら沖縄独自の美意識も持ち方、概念を知る。人、文化、知的財産へ興味を持つようになり、創造について造詣を深める。また、そういう会話を楽しめるようになり、自身の作品鑑賞能力を高める。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	自主的な思考、読書、実行を尊重
	2	琉球王朝時代の絵画ー王の影、御後絵ー	以下同文
	3	琉球王朝時代の絵画ー国家貿易、贈答品としての鑑賞絵画ー	
	4	王権の証、ムラの守神、民衆と同居するシーサー	
	5	琉球・沖縄の陶芸略史	
	6	沖縄県立博物館・美術館の歴史ー中間レポート提出（企画展により移動の可能性有り）	
	7	戦前戦後の画家ー名渡山愛順と大嶺政寛	
	8	戦争は画家をどう変えたかー美術村「ニシムイ」	
	9	外部からの眼差し1ー岡本太郎	
	10	外部からの眼差し2ー民藝運動家、岡村吉右衛門	
	11	外部からの眼差し3ー民藝運動と作家性、沖縄美術の自律	
	12	鑑賞法1	
	13	鑑賞法2	
	14	鑑賞法3	
15	まとめ		
16			

テキスト・参考文献・資料など
プリン資料トを適宜に配布。 配付資料に参考文献などを記載。

学びの手立て
講義に関係の無いインターネット閲覧、ソフト操作、私語を行った場合は退場を命じることがある。 講義開始10分以降の入室は禁ずる。 いろんな経験、感情を味わう。 美術館、画廊、野外展示、映画、テレビなど美術作品展示空間での作品鑑賞、書籍を読む。

評価
リアクションペーパー 20% : 中間レポート 35% : 最終レポート 45%

学びの継続
次のステージ・関連科目 興味のある科目は貪欲に履修。 文化、美術は世代や地域・民族を越えて考えていくものですから、人生を通してゆっくりと思考・嗜好・試行を構築して下さい。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の美術・工芸	前期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-赤嶺 善雄	1年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>先史時代から古琉球～近世琉球～近代沖縄～戦後沖縄と時代を経て現在までに作られてきた造形物（美術や工芸）特に工芸について、なかでも陶芸、漆芸、ガラス工芸を中心に、歴史的経緯に沿って見ていきます。琉球・沖縄の美術・工芸の概要を知ること、この分野あるいは他領域でのより詳細な知識獲得への意欲、研究意欲の喚起につなげられれば良いと考えています。</p>	<p>それにしても「美術」とは何でしょう。「工芸」とは？「美術工芸」という言い方もあります。美術とは何か知っている人も、「知っている」と思っている人も、知らない人も、この講義を受講することで、これまでの考えが変わってしまうかもしれません。違った見方ができるようになれば、それは進化、成長したと言えるでしょう。沖縄について学ぶ一つのきっかけになれば幸いです。</p>
到達目標	<p>通説を疑い、自分なりの仮説を立てることができる。 講義の内容を理解し、そのことを自分の言葉でアクションペーパーやレポートなどに文章化できる。 美術・工芸について興味関心を持ち、展覧会等へ足を運ぶようになる。また、そこで得た感想などを、自分の言葉で文章化でき、他者へ伝達できる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション / 沖縄の美術・工芸についてのレディネステスト	沖縄の美術・工芸を調べておく
	2	美術とは 工芸とは 美術工芸とは	プリントを読んで復習するとよい
	3	美術史のなかで琉球・沖縄の造形をみてる	プリントを読んで復習するとよい
	4	古琉球の造形	プリントを読んで復習するとよい
	5	↓	プリントを読んで復習するとよい
	6	近世琉球の造形	プリントを読んで復習するとよい
	7	↓	プリントを読んで復習するとよい
	8	近代沖縄の美術・工芸	プリントを読んで復習するとよい
	9	↓	プリントを読んで復習するとよい
	10	↓	プリントを読んで復習するとよい
	11	戦後の沖縄の美術・工芸	プリントを読んで復習するとよい
	12	↓	プリントを読んで復習するとよい
	13	↓	プリントを読んで復習するとよい
14	沖縄の美術・工芸の今後の展開	プリントを読んで復習するとよい	
15	テスト	プリントを読んで復習するとよい	
16	テスト返却と講義のまとめ	出席する方がよい	
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストは特に定めません。 参考文献として株式会社東京美術発行「すぐわかる沖縄の美術」および株式会社秀学社発行「美術資料沖縄県版」を使用し、それらを用いたプリントを資料として配布します。</p>		
学びの手立て	<p>毎回、講義のアクションペーパー等の提出物があります。それを以て出席の確認をします。休んでいる友人のものを本人が書いたかのような不正を行なって提出する学生がいました。不正は行わないでください。全体の1/3以上を欠席した場合、履修したとみなされません。つまり6回欠席すると履修したとみなされません。45分を超えての遅刻は出席したとみなされません。欠席扱いとします。学びの場にふさわしい真摯な態度で望んでもらいたいです。予習をすることは難しいと思うので復習することが望ましいです。美術館や画廊での展示会などに足を運ぶようにするとよいでしょう。</p>		
評価	<p>毎回のアクションペーパー・・・5% テスト・・・25% 欠席・・・1回につきマイナス5点</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>ほかの沖縄科目もできるだけ多く履修し、沖縄についての知識を増やして、生涯にわたって沖縄に興味を持ち続けていただきたいと思います。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

沖縄の伝統工芸は、周辺諸国との交易を通して発展してきた。それらの視点から歴史的／文化的に学ぶ。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の美術・工芸	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	又吉 光邦	1年	matayosi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 沖縄の伝統工芸の中の伝統染織を主に学び、三線についても琉球王府時代の度量衡の観点と風水の視点から学ぶ。	メッセージ 沖縄の伝統工芸は、現在でも立派な産業として成り立っています。地域の伝統や文化を語れるようになりましょう。
	到達目標 沖縄の伝統工芸や伝統工芸産業についての理解を深め、普及／発展させる方法について自ら考える。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	琉球開關について	教科書 第1章
	2	琉球王府時代の女性の役割・・・をなり神	教科書 第1章
	3	女性の衣装（中世以前）	教科書 第2章
	4	女性の衣装（中世と近世）	教科書 第2章
	5	琉球の染色技法についてⅠ（形付）	プリント（形付について）
	6	琉球の染色技法についてⅡ（藍）	プリント（藍について）
	7	琉球の形付で多用される紋様の統計データⅠ（食物紋様）	教科書 第3章&統計データ
	8	琉球の形付で多用される紋様の統計データⅡ（動物紋様）	教科書 第3章&統計データ
9	型紙・鲁班尺（唐尺）・三線について	教科書 第4章&プリント	
10	琉球王家の形付衣装のデザイン技法とクライス・ジオメトリー理論	教科書 第5章	
11	沖縄の伝統染織技法についてⅠ（知花花織、読谷山花織、与那国花織、台湾原住民の織物／織り方）	プリント	
12	沖縄の伝統染織技法についてⅡ（首里織り、琉球緋、久米島紬、宮古上布、八重山上布）	プリント	
13	沖縄の伝統工芸産業についてⅠ（一人当たりの生産額、従事者数、沖縄県内産業での位置づけ）	プリント	
14	「紅型」について	教科書 第6章	
15	まとめ		
16	テスト		
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：「紅型に秘された祈り」（沖縄教販）。 パワーポイントによる画像・動画の提示です。		
	学びの手立て パワーポイントで数多くの画像情報、あるいは動画情報を提示するので、毎回の出席が望ましい。		
	評価 出席：規定通り。 試験：規定通り。 提出物：1～2回程度の提出物。 授業態度：他の学生への迷惑、並びに授業を妨げるような言動がある場合不可とし、以降の授業の参加を認めない。（例：おしゃべり等）。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 沖縄関連科目。地域産業系科目。卒業論文。卒業研究。
-------	--

※ポリシーとの関連性

琉球諸島でつくられた造形物（美術・工芸）について知ることで、この地域の歴史や諸外国とのつながり、文化などが見えてきます。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の美術・工芸	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-赤嶺 善雄	1年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>先史時代から古琉球～近世琉球～近代沖縄～戦後沖縄と時代を経て現在までに作られてきた造形物（美術や工芸）特に工芸について、なかでも陶芸、漆芸、ガラス工芸を中心に、歴史的経緯に沿って見ていきます。琉球・沖縄の美術・工芸の概要を知ること、この分野あるいは他領域でのより詳細な知識獲得への意欲、研究意欲の喚起につなげられれば良いと考えています。</p>	<p>それにしても「美術」とは何でしょう。「工芸」とは？「美術工芸」という言い方もあります。美術とは何か知っている人も、「知っている」と思っている人も、知らない人も、この講義を受講することで、これまでの考えが変わってしまうかもしれません。違った見方ができるようになれば、それは進化、成長したと言えるでしょう。沖縄について学ぶ一つのきっかけになれば幸いです。</p>
到達目標	<p>通説を疑い、自分なりの仮説を立てることができる。 講義の内容を理解し、そのことを自分の言葉でアクションペーパーやレポートなどに文章化できる。 美術・工芸について興味関心を持ち、展覧会等へ足を運ぶようになる。また、そこで得た感想などを、自分の言葉で文章化でき、他者へ伝達できる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション / 沖縄の美術・工芸についてのレディネステスト	沖縄の美術・工芸を調べておく
	2	美術とは何か。 工芸とは？ 美術工芸とは？	プリントを読んで復習するとよい
	3	美術史のなかで琉球・沖縄の造形をみてる	プリントを読んで復習するとよい
	4	古琉球の造形	プリントを読んで復習するとよい
	5	↓	プリントを読んで復習するとよい
	6	近世琉球の造形	プリントを読んで復習するとよい
	7	↓	プリントを読んで復習するとよい
	8	近代沖縄の美術・工芸	プリントを読んで復習するとよい
	9	↓	プリントを読んで復習するとよい
	10	↓	プリントを読んで復習するとよい
	11	戦後の沖縄の美術・工芸	プリントを読んで復習するとよい
	12	↓	プリントを読んで復習するとよい
	13	↓	プリントを読んで復習するとよい
14	沖縄の美術・工芸の今後の展開	プリントを読んで復習するとよい	
15	テスト	プリントを読んで復習するとよい	
16	テスト返却と講義のまとめ	出席する方がよい	
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストは特に定めません。 参考文献として株式会社東京美術発行「すぐわかる沖縄の美術」および株式会社秀学社発行「美術資料沖縄県版」を使用し、それらを用いたプリントを資料として配布します。</p>		
学びの手立て	<p>毎回、講義のアクションペーパー等の提出物があります。それを以て出席の確認をします。休んでいる友人のものを本人が書いたかのような不正を行なって提出する学生がいました。不正は行わないでください。全体の1/3以上を欠席した場合、履修したとみなされません。つまり6回欠席すると履修したとみなされません。45分を超えての遅刻は出席したとみなされません。欠席扱いとします。学びの場にふさわしい真摯な態度で望んでもらいたいです。予習をすることは難しいと思うので復習することが望ましいです。美術館や画廊での展示会などに足を運ぶようにするとよいでしょう。</p>		
評価	<p>毎回のアクションペーパー・・・5% テスト・・・25% 欠席・・・1回につきマイナス5点</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>ほかの沖縄科目もできるだけ多く履修し、沖縄についての知識を増やして、生涯にわたって沖縄に興味を持ち続けていただきたいと思います。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

沖縄の伝統工芸は、周辺諸国との交易を通して発展してきた。それらの視点から歴史的／文化的に学ぶ。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の美術・工芸	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	又吉 光邦	1年	matayosi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	沖縄の伝統工芸の中の伝統染織を主に学び、三線についても琉球王府時代の度量衡の観点と風水の視点から学ぶ。	沖縄の伝統工芸は、現在でも立派な産業として成り立っています。地域の伝統や文化を語れるようになりましょう。

到達目標	沖縄の伝統工芸や伝統工芸産業についての理解を深め、普及／発展させる方法について自ら考える。
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	琉球開關について	教科書 第1章
	2	琉球王府時代の女性の役割・・・をなり神	教科書 第1章
	3	女性の衣装（中世以前）	教科書 第2章
	4	女性の衣装（中世と近世）	教科書 第2章
	5	琉球の染色技法についてⅠ（形付）	プリント（形付について）
	6	琉球の染色技法についてⅡ（藍）	プリント（藍について）
	7	琉球の形付で多用される紋様の統計データⅠ（食物紋様）	教科書 第3章&統計データ
	8	琉球の形付で多用される紋様の統計データⅡ（動物紋様）	教科書 第3章&統計データ
	9	型紙・鲁班尺（唐尺）・三線について	教科書 第4章&プリント
	10	琉球王家の形付衣装のデザイン技法とクライス・ジオメトリー理論	教科書 第5章
	11	沖縄の伝統染織技法についてⅠ（知花花織、読谷山花織、与那国花織、台湾原住民の織物／織り方）	プリント
	12	沖縄の伝統染織技法についてⅡ（首里織り、琉球緋、久米島紬、宮古上布、八重山上布）	プリント
	13	沖縄の伝統工芸産業について（一人当たりの生産額、従事者数、沖縄県内産業での位置づけ）	プリント
	14	「紅型」について	教科書 第6章
15	まとめ		
16	テスト		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：「紅型に秘された祈り」（沖縄教販）。 パワーポイントによる画像・動画の提示です。
-------	--

学びの手立て	パワーポイントで数多くの画像情報、あるいは動画情報を提示するので、毎回の出席が望ましい。
--------	--

評価	出席：規定通り。 試験：規定通り。 提出物：1～2回程度の提出物。 授業態度：他の学生への迷惑、並びに授業を妨げるような言動がある場合不可とし、以降の授業の参加を認めない。（例：おしゃべり等）。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 沖縄関連科目。地域産業系科目。卒業論文。卒業研究。
-------	--

※ポリシーとの関連性

沖縄の文化を学ぶ。特に沖縄の文学への理解を深めると共に、表現力を高め、自己実現力を身につける。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の文学	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大城 健	1年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	はじめに「略年表から沖縄文学の足跡をたどる」(『沖縄文学選』より)	
	2	戦前の小説を学ぶ「九年母」「奥間巡査」「滅びゆく琉球女の手記」など	
	3	アメリカ統治下の芥川賞作品「カクテル・パーティー」「沖縄の少年」	作品を読む
	4	沖縄俳句の概観	
	5	俳句入門講座Ⅰ	
	6	俳句入門講座Ⅱ	
	7	俳句創作の試み	創作を試みる
	8	復帰後の小説Ⅰ 芥川賞作品「水滴」「豚の報い」	作品を読む
	9	復帰後の小説Ⅱ 「風水譚」「権の川」	
	10	戦前の琉歌・詩・短歌	
	11	山之口獺の詩を学ぶ	
	12	沖縄戦後の詩の世界Ⅰ	
	13	沖縄戦後の詩の世界Ⅱ&詩創作の試み	
	14	沖縄戦後の短歌&短歌創作の試み	
15	まとめと課題レポートの説明		
16	課題レポート提出	課題レポートの提出	

実践	テキスト・参考文献・資料など
----	----------------

学びの手立て	①「履修の心構え」：指定された作品は読んでおくこと。課題レポートは作品に関することが中心です。 ②「学びを深めるために」：参考文献や紹介する作品や論文は読んでほしい。
--------	--

評価	【評価方法】：出席、課題レポート(3回予定)、課題作品で評価する。「課題レポート70%、課題作品20%、平常点10%」 (注：授業日数の3分の1を欠席すると、規定により不可となる。3回の遅刻は1回の欠席と見なす。)
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 ・沖縄を舞台にした作品や沖縄出身の作家の作品を読み続けてほしい。新聞の文化欄や書評も参考にしてください。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の民俗	前期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	波平 エリ子	1年	講義終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義では、沖縄の民俗文化について考察する。具体的には、沖縄の伝統的村落・生業・家族親族といった民俗事象を取り上げる中で、沖縄の民衆文化がどのような特色を持っているのかを中心にテーマとして論じる。また時間の許す限り、周辺諸文化との類縁性や異質性について言及し、理解を深めてもらうためにビデオも活用しながら、講義を進めていく。	沖縄の民俗文化についてわかりやすい授業を心掛けています。この講義がきっかけとなり、沖縄の慣習や文化のあり様に関心を持ってくれると大変嬉しいです。
到達目標	大学卒業後、習得した沖縄の民俗文化についての知識を仕事や家庭生活の中で活かすことができる。例えば、高齢化社会の中、その方たちの生きてきた文化的背景を知ること、円滑にコミュニケーションを図ることができる。また、沖縄のリーディング産業である観光業に関連する職種に従事する場合、習得した沖縄の民俗文化の知識を活かすことができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画	テーマ	時間外学習の内容
	回		
	1	ガイダンス	シラバスを読む
2	柳田国男と民俗学	柳田国男について予習をしておく	
3	沖縄の家族	自分の家族・親族のつながりを知る	
4	沖縄の親族	同上	
5	門中の成立①	参考文献：第三章	
6	門中の成立②	同上	
7	門中の機能と構造①	同上	
8	門中の機能と構造②	同上	
9	家の相続	参考文献：第四章	
10	沖縄の霊的職能者	同上	
11	沖縄の霊的職能者ーユタ①	ユタ、ノロについて予習をしておく	
12	祭祀と信仰①	参考文献：第一章	
13	祭祀と信仰②	同上	
14	糖業と鉄道①	沖縄の生業について予習しておく	
15	糖業と鉄道②	前回資料を復習しておく	
16	試験		
	テキスト・参考文献・資料など	参考文献：『トートーメーの民俗学講座ー沖縄の門中と位牌祭祀ー』ボーダーインク、2010年、定価1600円	
	学びの手立て	履修の心構え ①出欠確認を時々行う ②レジュメの復習を行って授業に出席する ③前回配布のレジュメは忘れずに持参すること	
	評価	評価方法：期末試験90%、平常点10パーセント	

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1) 関連科目 「沖縄の歴史、沖縄の言語」 (2) 次のステージ 家族や親戚に民俗に関連する聞き取りの調査を行う
-------	---

※ポリシーとの関連性 沖縄の民俗文化の特色やアジアとの類縁性など身近な事例をとおし
て理解する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の民俗	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-儀間 淳一	1年	授業終了後に教室、またはE-mail等で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 沖縄には先人達から受け継がれてきた民俗文化が存在する。本講義ではその由来や変遷、特色とともに、周辺諸地域との比較によって類縁性や異質性などを学び、自他の民俗文化を理解、尊重できるようにしてほしい。	メッセージ 共通科目なので、各学部・各学年の学生に理解してもらえよう、映像資料などを活用しながら説明します。
	到達目標 沖縄の民俗文化について理解し、県外や海外の人々に説明できる。周辺諸地域との比較によって文化の多様性を理解することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義概要・民俗学とは	レジュメとシラバスを読む
	2	沖縄の村落①（地理的特徴）	地元の集落を歩く
	3	沖縄の村落②（信仰と祭祀組織）	参考文献を読む
	4	沖縄の村落③（社会と経済）	地元の自治会や産業について調べる
	5	年中行事①	家族に家の行事について聞いてみる
	6	年中行事②	家族に家の行事について聞いてみる
	7	人の一生①	家族に人生儀礼について聞いてみる
	8	人の一生②	家族に人生儀礼について聞いてみる
9	祖先崇拜	家の位牌を見る	
10	沖縄のシャーマン	家族に話を聞いてみる	
11	フィールドワークとは	レポートのテーマ設定及び調査	
12	外来の信仰①	身近な外来信仰を探す	
13	外来の信仰②	身近な外来信仰を探す	
14	仕事と暮らし	地元の産業について調べる	
15	自然災害と民俗	災害に関する民話を調べる	
16	レポート形式の試験	レポート作成	
実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは使用しません。毎回レジュメを配布します。 参考文献はレジュメで紹介します。		
	学びの手立て 1. 私語など他の学生の迷惑になる行為はやめましょう。 2. 講義日数の3分の1以上無断欠席した場合は不可にします。 3. やむを得ず欠席をする場合には欠席届を提出して下さい。 4. 身近な民俗事象に関心を持ちましょう。		
	評価 1. 出席用紙に講義の感想や質問を書いてもらい、出席状況と授業への参加状況を判断する（30%） 2. レポート形式の試験（70%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 民俗文化は、自然・歴史・政治・経済・社会など様々な分野が影響しています。そのため、沖縄の民俗文化を深く理解するために「沖縄科目群」「社会生活科目群」「人間文化科目群」の科目を受講することをおすすめします。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の民俗	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-波平 エリ子	1年	講義終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、沖縄の民俗文化について考察する。具体的には、沖縄の伝統的村落・生業・家族親族といった民俗事象を取り上げる中で、沖縄の民衆文化がどのような特色を持っているのかを中心にテーマとして論じる。また時間の許す限り、周辺諸文化との類縁性や異質性について言及し、理解を深めてもらうためにビデオも活用しながら、講義を進めていく。</p>	<p>沖縄の民俗文化についてわかりやすい授業を心掛けています。この講義がきっかけとなり、沖縄の慣習や文化のあり様に関心を持ってくれると大変嬉しいです。</p>
到達目標	<p>大学卒業後、習得した沖縄の民俗文化についての知識を仕事や家庭生活の中で活かすことができる。例えば、高齢化社会の中、その方たちの生きてきた文化的背景を知ること、円滑にコミュニケーションを図ることができる。また、沖縄のリーディング産業である観光業に関連する職種に従事する場合、習得した沖縄の民俗文化の知識を活かすことができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイドダンス	シラバスを読む
2	柳田国男と民俗学	柳田国男について予習をしておく	
3	沖縄の家族	自分の家族・親族のつながりを知る	
4	沖縄の親族	同上	
5	門中の成立①	参考文献：第三章	
6	門中の成立②	同上	
7	門中の機能と構造①	同上	
8	門中の機能と構造②	同上	
9	位牌祭祀①	参考文献：第四章	
10	位牌祭祀②	同上	
11	沖縄の霊的職能者ーユタ①	ユタ、ノロについて予習をしておく	
12	祭祀と信仰①	参考文献：第一章	
13	祭祀と信仰②	同上	
14	糖業と鉄道①	沖縄の生業について予習しておく	
15	糖業と鉄道②	前回資料を復習しておく	
16	試験		
テキスト・参考文献・資料など	<p>参考文献：『トートーメーの民俗学講座ー沖縄の門中と位牌祭祀ー』ボーダーインク、2010年、定価1600円</p>		
学びの手立て	<p>履修の心構え ①出欠確認を時々行う ②レジュメの復習を行って授業に出席する ③前回配布のレジュメは忘れずに持参すること</p>		
評価	<p>評価方法：期末試験90%、平常点10パーセント</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	(1) 関連科目 「沖縄の歴史、沖縄の言語」 (2) 次のステージ 家族や親戚に民俗に関連する聞き取りの調査を行う

※ポリシーとの関連性 沖縄の民俗文化の特色やアジアとの類縁性など身近な事例をとおし
て理解する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の民俗	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	儀間 淳一	1年	授業終了後に教室、またはE-mail等で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 沖縄には先人達から受け継がれてきた民俗文化が存在する。本講義ではその由来や変遷、特色とともに、周辺諸地域との比較によって類縁性や異質性などを学び、自他の民俗文化を理解、尊重できるようにしてほしい。	メッセージ 共通科目なので、各学部・各学年の学生に理解してもらえよう、映像資料などを活用しながら説明します。
	到達目標 沖縄の民俗文化について理解し、県外や海外の人々に説明できる。周辺諸地域との比較によって文化の多様性を理解することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義概要・民俗学とは	レジュメとシラバスを読む
	2	沖縄の村落①（地理的特徴）	地元の集落を歩く
	3	沖縄の村落②（信仰と祭祀組織）	参考文献を読む
	4	沖縄の村落③（社会と経済）	地元の自治会や産業について調べる
	5	年中行事①	家族に家の行事について聞いてみる
	6	年中行事②	家族に家の行事について聞いてみる
	7	人の一生①	家族に人生儀礼について聞いてみる
	8	人の一生②	家族に人生儀礼について聞いてみる
	9	祖先崇拜	家の位牌を見る
	10	沖縄のシャーマン	家族に話を聞いてみる
	11	フィールドワークとは	レポートのテーマ設定及び調査
	12	外来の信仰①	身近な外来信仰を探す
	13	外来の信仰②	身近な外来信仰を探す
	14	仕事と暮らし	地元の産業について調べる
	15	自然災害と民俗	災害に関する民話を調べる
	16	レポート形式の試験	レポート作成
	テキスト・参考文献・資料など テキストは使用しません。毎回レジュメを配布します。 参考文献はレジュメで紹介します。		
	学びの手立て 1. 私語など他の学生の迷惑になる行為はやめましょう。 2. 講義日数の3分の1以上無断欠席した場合は不可にします。 3. やむを得ず欠席をする場合には欠席届を提出して下さい。 4. 身近な民俗事象に関心を持ちましょう。		
	評価 1. 出席用紙に講義の感想や質問を書いてもらい、出席状況と授業への参加状況を判断する（30%） 2. レポート形式の試験（70%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 民俗文化は、自然・歴史・政治・経済・社会など様々な分野が影響しています。そのため、沖縄の民俗文化を深く理解するために「沖縄科目群」「社会生活科目群」「人間文化科目群」の科目を受講することをおすすめします。
-------	---

※ポリシーとの関連性

沖縄の民俗事象（信仰・年中行事・人生儀礼など）を理解し、沖縄社会における基本的な知識を習得するための導入科目。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の民俗	前期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	城間義勝	1年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>沖縄各地で継承されている伝統的な民俗事象を紹介しながら、そこに住む人々の多様な生活文化を考える。また、自分が住んでいる地域や家族との関係を見つめ直し、自己アイデンティティの確立を目指す。</p>	<p>本講義ではパワーポイントを活用しながら各地で撮影した写真や映像を見ていただきます。分かりやすい講義を心掛けていきたいと思いをします。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生まれ育った地域や家族に興味を持つことができる。 ・親族や地域の人々に聞き取り調査（インタビュー）ができるようになる。 ・聞き取り調査を通して、コミュニケーションがスムーズに取ることができる。 ・親族や地域の人々から伝え聞いたことをまとめることができる。 ・沖縄の民俗事象に関する知識を習得し、本土や外国出身者に説明することができる。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義内容の説明	シラバスを読むこと
	2	民俗学と沖縄研究	柳田国男や伊波普猷の著作を読む
	3	村落①（シマ）	住んでいる地域の景観を観察する
	4	村落②（聖地）	地域にある聖地について調べる
	5	村落③（聖地）	同上
	6	住居①	親族が住んでいた住居について聞く
	7	住居②	同上
	8	家族と親族①	家族の繋がりを親族から聞く
	9	家族と親族②	同上
	10	年中行事①	地域・門中・家庭の行事を聞く
	11	年中行事②	同上
	12	年中行事③	同上
	13	人生儀礼①	人生の節目に行われる儀礼を聞く
	14	人生儀礼②	同上
15	民俗調査の報告	民俗調査の手法について調べる	
16	来訪神祭祀	来訪神について調べる	

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストはなし。講義毎にレジュメを配布する。参考文献や資料は講義毎に随時、紹介する。</p>
-------	---

学びの手立て	<p>履修の心構え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私語は慎む。 ・講義時間（90分）の半分以上の遅刻は欠席とする。就職活動での欠席、体調不良などで欠席の場合は、欠席届を提出する。 ・講義終了時、出席票は最前列の机の上に学部学科ごとに分けて提出する。 <p>学びを深めるために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本講義を受講するときは、皆さんの住んでいる地域、所属している門中、家庭と比べながら受講してほしい。 ・各講義を受講後、両親や祖父母、地域の先輩たちに講義内容を話しコミュニケーションを取ってもらいたい。
--------	--

評価	<p>出席状況（60%）</p> <p>レポート（40%）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・15回ある講義の中で、興味を持ったテーマを1つ取り上げ、レポートを作成する。 ・選んだテーマに関して、必ず親・祖父母・地域の先輩方（お年寄り）から話を聞く。 ・他府県出身の生徒や留学生は、出身地と沖縄の民俗文化を比較してもよい。
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>沖縄の民俗をより深く理解するためには、沖縄関連の共通科目を受講していただきたい。また、より専門的に沖縄の民俗を学びたい方は、社会文化学科の専門科目から選んで受講していただきたい。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性 沖縄を知る上での一助として、現在では調査困難な沖縄の民話を幅広く知る。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の民話	前期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	袴 晴一郎	1年	講義終了後教室にて行います。	

学びの準備	ねらい 沖縄の民話は、口承文芸にとどまらず民俗・歴史・地理的環境など様々なものが織り込まれていると考える。それらをひもといていくと沖縄、琉球のグローバルは大昔からあったのだと気づいて欲しい。	メッセージ 毎回提供する資料は、沖縄国際大学の学生達が、大学設立当初から手弁当でフィールドワークを行い、録音し文字化したものである。話者として協力された方も多くが亡くなっている。それだけ貴重なものであると認識して講義を受けて欲しい。
	到達目標 ①全てを記憶することは困難だが、どこにどのような民話があったのかを少しでも記憶にとどめて欲しい。②提供された資料を今後将来、紙芝居や絵本などにして子ども達に伝承できればなおよい。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・履修上や講義中の注意、評価の付け方などの説明。民話概要	
	2	民話の概要その2	
	3	神話	
	4	伝説その1	
	5	伝説その2	
	6	伝説その3	
	7	昔話 動物昔話	
	8	昔話 本格昔話その1	
9	昔話 本格昔話その2		
10	昔話 本格昔話その3		
11	昔話 本格昔話その4		
12	昔話 笑い話その1		
13	昔話 笑い話その2		
14	昔話 笑い話その3		
15	世間話・その他		
16	まとめ・レポート提出		
実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは使用しません。毎回の講義で資料を提供します。予備はありませんので紛失しないように。		
	学びの手立て 沖縄の民話を聞く中で、琉球語や民俗行事が時々出てきます。なるだけ説明しますが、前もって知っておいた方がより知識が深まるでしょう。また、伝承系譜を考えると、民俗や民族、地理歴史などにも興味を持っていた方がなるほどと思うでしょう。講義の形態としては講師が一方的に説明する形なので、居眠りをしやすい学生やおしゃべりをする学生は登録を遠慮した方がいいでしょう。		
	評価 毎回、その講義の簡単な感想や質問などを書いて貰います。評価は、皆出席・レポート提出で満点の100点。1回欠席で10点の減点で5回欠席をすると50点減点で「不可」とします。遅刻は5点減点で欠席と合わせて50点減点になれば「不可」とします。代理出席やその他不正をした者はその場で「不可」とします。この講義はいかにたくさんの沖縄の民話に接するかが課題です。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 沖縄関係の科目は当然だが、世界各地の人類の民俗や歴史などにも関連する学問に接して欲しい。
-------	---

※ポリシーとの関連性 本学のポリシーにうたわれている”自らが生きる社会をより深く理解するため”の一助となれる様な講義を行います。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の歴史Ⅱ（近現代）	前期	土2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-伊敷 勝美	1年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 明治期から日本復帰前後までの沖縄の歩みを概論します。その時代の動きや住民にも焦点をあて、沖縄歴史の「見方」をさまざまな側面から捉えることができると考えます。	メッセージ 学生との対話を意識した講義を心がけますので、積極的な授業への参加を期待します。私語や他の受講生の学習を妨げるような事は認めませんので留意してください。
	到達目標 沖縄社会を理解する一手段のひとつとして、位置づけます。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	エイサー	
	2	琉球処分（廃琉置県）前夜	講義資料の復習と参考資料の確認
	3	沖縄移民①	同上
	4	沖縄移民②－国策移民	同上
	5	沖縄戦への道①、②	体験書の聞き取りを行う
	6	戦後引き揚げ①、②	同上
	7	戦後復興と基地建設	講義資料の復習と参考資料の確認
	8	都市建設と特飲街	同上
	9	コザ「暴動」	同上
	10	毒ガス移送	同上
	11	復帰前後の沖縄	同上
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
	テキスト・参考文献・資料など 特定の教科書は使用せず、毎回、レジュメを作成・配布します。またテーマによって、新聞資料・映像資料等も利用します。参考文献は、レジュメに記載します。		
	学びの手立て 履行の心構えとしては、遅刻や雑談等の禁止はもちろんであるが、学びを深めるためには多めに議論を行ってほしい。もちろん参考文献等にもしっかりと目を通してほしい。		
	評価 基本的には試験とレポートで評価をしますが、途中で行う小テストや出席も加味します。試験は10問程度の中から2問を選択し解答する形式です。その際、講義で配布したレジュメや参考文献の持ち込みは可能です。レポートは複数の題から選択・解答してもらいます。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 学びの継続として、やはり復習の繰り返しと、可能な限り多くの参考文献にも目を通してほしい。次のステージへのステップとしては、講義で習った歴史の出来事（事象）が起こった背景や意義（沖縄社会へ与えた影響）を意識した学習のあり方を模索してほしい。
-------	--

※ポリシーとの関連性 琉球併合から現代にいたる沖縄の歴史を理解することで、沖縄を取り巻く諸問題に向き合うための基礎学力を習得する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の歴史Ⅱ（近現代）	前期	土3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-新城 俊昭	1年	E-mail:aragusuku1013@yahoo.co.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>1 本講座では、近代沖縄から現代沖縄までの歴史を概説的に学習する。また、時代と関連するヒト・モノにも焦点をあてる。</p> <p>2 日本史や世界史で学んだ知識に琉球・沖縄史の視点を組み込むことで、歴史の本質を見極める目を養う。</p> <p>3 沖縄という地域で独自の歴史を形成した先人の足跡を学ぶことで、沖縄人(カナンチュ)としてのアイデンティティの確立を図る。</p>	<p>沖縄学の父・伊波普猷は「汝の立つところを深く掘れ、そこには泉あり」というドイツの哲学者ニーチェの言葉を引用して、沖縄の歴史や文化を学ぶことの大切さを説いている。自らの生まれ育った地域には、先人の知恵や自分自身の存在理由を解き明かしてくれるヒントが埋まっているからだ。本講座で、ウチナンチュのアイデンティティについて学習を深めてほしい。</p>
到達目標	<p>1 琉球国がどのように崩壊して明治政府に併合されたのかを学ぶことにより、現代沖縄の諸問題に向き合う基礎的教養を身につけることができる。</p> <p>2 近代沖縄の人々がどのように日本へ同化・皇民化されたのかを学ぶことにより、現代ウチナンチュのアイデンティティを考える手だてすることができる。</p> <p>3 沖縄戦の実相を追及することで住民を守らない軍隊の本質を知ることができ、反戦・平和の思想を高めることができる。</p> <p>4 日本復帰運動や現代の基地問題等を学ぶことにより、沖縄の将来像を描くための基礎的教養を身につけることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	授業を始めるにあたって。明治政府による琉球併合	
	2	旧慣温存策と沖縄県政—沖縄民衆は世替わりをどう受け止めたか	テキスト 第6章の1
	3	謝花昇の民権運動と人頭税廃止運動—県民は権利をどう獲得したか	テキスト 第6章の2, 3
	4	昭和恐慌と移民—ソツ地獄とはどのような社会状況か	テキスト 第6章の4
	5	軍国主義の台頭—15年戦争はどのように始まったか	テキスト 第7章の1
	6	戦時体制と県民の暮らし—標準語励行運動がもたらしたものは何か	テキスト 第7章の2
	7	アジア太平洋戦争と沖縄—日本はなぜ米国と戦争を始めたか	テキスト 第7章の3
	8	沖縄戦前夜（対馬丸事件, 10・10空襲）—沖縄戦はなぜ起こったか	テキスト 第7章の4
	9	沖縄戦の実相—沖縄戦から何を学ぶか	テキスト 第7章の5
	10	米軍支配のはじまり—戦後の焼け跡からどのように立ち上がったか	テキスト 第8章の1
	11	琉球政府の設立—島ぐるみ闘争はなぜおこったか	テキスト 第8章の2
	12	日本復帰運動—沖縄住民はなぜ日本復帰を望んだか	テキスト 第8章の3
	13	新生沖縄県—日本復帰で何が変わったか	テキスト 第9章の1, 2
	14	現代の沖縄—基地問題など現代沖縄の課題にどう立ち向かうか	テキスト 第9章の3, 4
15	琉球・沖縄の歴史と文化のまとめ	試験勉強	
16	期末考査		

テキスト・参考文献・資料など
 テキスト：新城俊昭『教養講座 琉球・沖縄史』 編集工房東洋企画発行 2014年 1200円（学生価格）。
 参考文献：新城俊昭『沖縄から見える歴史風景』 編集工房東洋企画発行 2010年。新城俊昭『琉球・沖縄 歴史人物伝』 沖縄時事出版 2007年。新城俊昭『戦後100年へのメッセージ 2045年のあなたへ』 時事出版発行 2016年。
 その他、必要に応じて資料を配布。

学びの手立て

- ・授業はシラバスに記した内容を教科書に沿って進めるので、必ず教科書を購入して予習し、授業に臨むようにすること。
- ・毎時間、本時の学習内容をまとめたワークシートと関連資料を配布して授業を進めるので、ワークシートに空欄の無いようしっかりとまとめ、ファイルに整理すること。また、ワークシートに記載されていない事項は余白を利用してメモをするなど、各自で工夫すること。
- ・授業の最後には簡単なテストを実施するので、ワークシートの書き込みを怠らないこと。

評価

評価は毎時間の授業に対する取り組み、課題（レポート形式）、確認試験で行う。
 配分は、毎時間の授業評価（小テスト形式）30%、課題（フィールドワークのレポート）30%、確認試験（予め与えた問題プリントから出題）40%。また、授業に取り組む姿勢や意欲も評価の対象とし、場合によっては加点・減点することもある。

学びの継続

次のステージ・関連科目

(1) 関連科目：沖縄の歴史Ⅰ「類似科目」：沖縄近現代史Ⅰ・Ⅱ「上位科目」：沖縄の経済、沖縄の政治、沖縄戦、沖縄の基地問題A・B、卒業論文
 (2) 次のステージ：興味・関心をもった歴史事象について戦争遺跡や平和祈念資料館・県立博物館などの施設で学習を深める。基地問題など現代沖縄の諸問題について学習を深める。

※ポリシーとの関連性 琉球併合から現代にいたる沖縄の歴史を理解することで、沖縄を取り巻く諸問題に向き合うための基礎学力を習得する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の歴史Ⅱ（近現代）	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-新城 俊昭	1年	E-mail:aragusuku1013@yahoo.co.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>1 本講座では、近代沖縄から現代沖縄までの歴史を概説的に学習する。また、時代と関連するヒト・モノにも焦点をあてる。</p> <p>2 日本史や世界史で学んだ知識に琉球・沖縄史の視点を組み込むことで、歴史の本質を見極める目を養う。</p> <p>3 沖縄という地域で独自の歴史を形成した先人の足跡を学ぶことで、沖縄人(カナンチュ)としてのアイデンティティの確立を図る。</p>	<p>沖縄学の父・伊波普猷は「汝の立つところを深く掘れ、そこには泉あり」というドイツの哲学者ニーチェの言葉を引用して、沖縄の歴史や文化を学ぶことの大切さを説いている。自らの生まれ育った地域には、先人の知恵や自分自身の存在理由を解き明かしてくれるヒントが埋まっているからだ。本講座で、ウチナンチュのアイデンティティについて学習を深めてほしい。</p>
到達目標	<p>1 琉球国がどのように崩壊して明治政府に併合されたのかを学ぶことにより、現代沖縄の諸問題に向き合う基礎的教養を身につけることができる。</p> <p>2 近代沖縄の人々がどのように日本へ同化・皇民化されたのかを学ぶことにより、現代ウチナンチュのアイデンティティを考える手だてすることができる。</p> <p>3 沖縄戦の実相を追及することで住民を守らない軍隊の本質を知ることができ、反戦・平和の思想を高めることができる。</p> <p>4 日本復帰運動や現代の基地問題等を学ぶことにより、沖縄の将来像を描くための基礎的教養を身につけることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	授業を始めるにあたって。明治政府による琉球併合	
	2	旧慣温存策と沖縄県政—沖縄民衆は世替わりをどう受け止めたか	テキスト 第6章の1
	3	謝花昇の民権運動と人頭税廃止運動—県民は権利をどう獲得したか	テキスト 第6章の2, 3
	4	昭和恐慌と移民—ソツク地獄とはどのような社会状況か	テキスト 第6章の4
	5	軍国主義の台頭—15年戦争はどのように始まったか	テキスト 第7章の1
	6	戦時体制と県民の暮らし—標準語励行運動がもたらしたものは何か	テキスト 第7章の2
	7	アジア太平洋戦争と沖縄—日本はなぜ米国と戦争を始めたか	テキスト 第7章の3
	8	沖縄戦前夜（対馬丸事件、10・10空襲）—沖縄戦はなぜ起こったか	テキスト 第7章の4
	9	沖縄戦の実相—沖縄戦から何を学ぶか	テキスト 第7章の5
	10	米軍支配のはじまり—戦後の焼け跡からどのように立ち上がったか	テキスト 第8章の1
	11	琉球政府の設立—島ぐるみ闘争はなぜおこったか	テキスト 第8章の2
	12	日本復帰運動—沖縄住民はなぜ日本復帰を望んだか	テキスト 第8章の3
	13	新生沖縄県—日本復帰で何が変わったか	テキスト 第9章の1, 2
	14	現代の沖縄—基地問題など現代沖縄の課題にどう立ち向かうか	テキスト 第9章の3, 4
15	琉球・沖縄の歴史と文化のまとめ	試験勉強	
16	期末考査		

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：新城俊昭『教養講座 琉球・沖縄史』 編集工房東洋企画発行 2014年 1200円（学生価格）。 参考文献：新城俊昭『沖縄から見える歴史風景』 編集工房東洋企画発行 2010年。新城俊昭『琉球・沖縄 歴史人物伝』 沖縄時事出版 2007年。新城俊昭『戦後100年へのメッセージ 2045年のあなたへ』 時事出版発行 2016年。 その他、必要に応じて資料を配布。</p>
-------	--

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・授業はシラバスに記した内容を教科書に沿って進めるので、必ず教科書を購入して予習し、授業に臨むようにすること。 ・毎時間、本時の学習内容をまとめたワークシートと関連資料を配布して授業を進めるので、ワークシートに空欄の無いようしっかりとまとめ、ファイルに整理すること。また、ワークシートに記載されていない事項は余白を利用してメモをするなど、各自で工夫すること。 ・授業の最後には簡単なテストを実施するので、ワークシートの書き込みを怠らないこと。 ・欠席の場合は、公欠・病欠にかかわらず事前に届け出ること。事情があって事前に届け出ることができなかった場合は、理由を付記して速やかに届け出ること。
--------	--

評価	<p>評価は毎時間の授業に対する取り組み、課題（レポート形式）、確認試験で行う。</p> <p>配分は、毎時間の授業評価（小テスト形式）30%、課題（フィールドワークのレポート）30%、確認試験（予め与えた問題プリントから出題）40%。また、授業に取り組む姿勢や意欲も評価の対象とし、場合によっては加点・減点することもある。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>(1) 関連科目：沖縄の歴史Ⅰ「類似科目」：沖縄近現代史Ⅰ・Ⅱ「上位科目」：沖縄の経済、沖縄の政治、沖縄戦、沖縄の基地問題A・B、卒業論文</p> <p>(2) 次のステージ：興味・関心をもった歴史事象について戦争遺跡や平和祈念資料館・県立博物館などの施設で学習を深める。基地問題など現代沖縄の諸問題について学習を深める。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性 「沖縄問題」に対する視点、見識を養うことを目的とする。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の歴史Ⅱ（近現代）	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-渡名喜 守太	1年	mrttnk@yahoo.co.jp	

学びの準備	ねらい 沖縄の歴史を知り、「沖縄問題」の起源を理解し、「沖縄問題」の本質を考え、解決の道を探ることを目的とする。特に自己決定権や「イデオロギーからアイデンティティーへ」の意義の理解を目指す。	メッセージ これまで学んで身につけた常識を覆す内容も多いとは思いますが、なるべくわかりやすく教えたいと思います。
	到達目標 自己決定権をはじめとする「沖縄問題」に関する最先端の知見を習得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	概説	
	2	琉球併合論①（概説）	
	3	琉球併合論②（国際法から見た琉球併合）	
	4	植民地としての琉球①（同化政策 旧慣温存と法制的同化）	
	5	植民地としての琉球②（同化政策 精神的同化）	
	6	沖縄差別と沖縄知識人	
	7	戦前の沖縄社会	
	8	戦前の抵抗運動（民族運動から社会主義へ）	
	9	戦前の沖縄文化（伝統文化から沖縄芝居、レコード文化の発展）	
	10	沖縄文化・アイデンティティーの破壊（皇民化、精神総動員運動）	
	11	沖縄戦①（概説）	
	12	沖縄戦②（戦争責任、法的責任と戦争犯罪。国際法から見た沖縄戦）	
	13	軍事基地の形成（国際法から見た沖縄の軍事基地）	
	14	「復帰」後の沖縄問題	
	15	「沖縄問題」の現在	
	16	レポート提出	
	テキスト・参考文献・資料など テキストは指定しない。資料はその都度配布する。参考文献は講義で示す。		
	学びの手立て 目的意識、問題意識をもって受講することが望ましい。		
	評価 平常点40%、レポート60%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「イデオロギーからアイデンティティーへ」や国際法の視点を身につけることによって、自己決定権の議論に参加できる。
-------	--

※ポリシーとの関連性 本学のポリシーに謳われている「自らの社会をより深く理解するために」の一助となれるような講義を心がけています。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の歴史Ⅱ（近現代）	後期	土2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	恩河 尚	1年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 沖縄戦や基地問題等、現在の沖縄が抱える諸問題をもたらした近現代（明治時代から沖縄戦を経て戦後史まで）の歩みを概論します。	メッセージ 学生さんとのキャッチボールを意識した講義を心がけますので、多くの質問や疑問、質疑等を期待します。それゆえ、当然ながら私語は絶対認めませんので留意下さい。
	到達目標 基地問題、環境問題等複雑な様相を示す沖縄の現代社会ですが、その理解の一助となるような講義を心がけます。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	沖縄人について	レジュメの復習と参考文献の参照
	2	近代沖縄の前夜（牧志・恩河事件と島津斉彬）	同上
	3	琉球処分（廃琉置県）	同上
	4	旧慣温存（存続）と近代諸改革	同上
	5	沖縄移民の諸相	可能であれば体験者の聞き取り
	6	国家総動員態勢の確立（沖縄戦への道）	レジュメの復習と参考文献の参照
	7	沖縄戦	体験者の聞き取り
	8	引き揚げと沖縄戦後史	レジュメの復習と参考文献の参照
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
	テキスト・参考文献・資料など 適当な教科書がないので、原則、毎回、テーマに沿ったレジュメを作成・配布します。また、参考文献は、レジュメにその都度、掲載します。		
	学びの手立て		
	評価 評価はテストとレポートで行います。テストはおよそ10問程度の中から2問を選んで解答してもらいます。その際、講義で配布しているレジュメや参考文献の持ち込みは可とします。理由としては、歴史事象が起こった年代等を問うのではなく、その事象が起こった歴史的背景や意義を答えてもらうようにするためです。レポートは数題の中から1題を選んでもらい、テストの際に解答用紙と一緒に提出してもらいます。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 歴史の学習は、ひたすら参考文献や資料の多読につきると考えています。
-------	--

※ポリシーとの関連性 本学のポリシーに謳われている「自らの社会をより深く理解するための」の一助となれるような講義を心がけています。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の歴史Ⅰ（前近代）	前期	土1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	恩河 尚	1年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 前近代（明治時代以前）の沖縄歴史を、主としてグスク時代から幕末までを通史的に行います。沖縄文化を生み出した歴史的背景を概論します。	メッセージ 複雑な様相を帯びる沖縄社会を理解する手段の一つとして、本講義を位置づけています。
	到達目標 大学に入るまでにほとんど接することのなかった沖縄の歴史や文化について、本格的に学べる機会だと思います。年代等を暗記する、いわば受験勉強の延長のような講義ではなく、例えば、首里城を自らガイドできるような、あるいは沖縄の歴史・文化の基層を学べるようになるまでを目標としています。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	グスク時代と古琉球	レジュメの復習と参考文献の参照
	2	大交易時代と古琉球	同上
	3	進貢貿易と大交易時代	同上
	4	首里城と東アジア社会	現場視察。首里城に行つて欲しい。
	5	薩摩侵入	レジュメの復習と参考文献の参照
	6	薩摩侵入の歴史的意義	同上
	7	間切と村	同上
	8	沖縄人の姓名について	身内や周囲への聞き取り
	9	沖縄の道Ⅰ（海上交通）	現在との比較
	10	沖縄の道Ⅱ（陸上交通）	同上
	11	近代沖縄の前夜（牧志・恩河事件と島津斉彬）	レジュメの復習と参考文献の参照
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
	テキスト・参考文献・資料など 適当な教科書がないので、原則、テキストは使用せず、毎回、テーマに沿ったレジュメを作成・配布します。また、参考文献は、レジュメにその都度、掲載します。		
	学びの手立て 学生さんとのキャッチボールを意識した講義を心がけます。そのため、多くの質問・質疑を期待します。また、当然ながら私語は絶対に認めませんので、留意下さい。		
	評価 評価はテストとレポートで行います。テストは配付資料や他の文献等の持ち込み等を可とします。レポートは数テーマを課しますので、その中から1テーマを選んで調べて下さい。いずれも独創性にあふれた解答（テスト）と、調査内容（レポート）を期待します。配分割合は、各50%ずつです。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 配布資料に記載されている参考文献はもちろん、図書や論文等の多読を期待します。
-------	---

※ポリシーとの関連性 「沖縄問題」に対する視点、見識を養うことを目的とする。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の歴史Ⅰ（前近代）	前期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-渡名喜 守太	1年	mrttnk@yahoo.co.jp	

学びの準備	ねらい 沖縄の歴史を知ることによって、現在の「沖縄問題」に対する視点、見識を養い、その解決の道を探ることを目的とする。沖縄とは何か、沖縄人とは何かを知ることによって近年注目されている自己決定権に対する理解を目指す。政治史だけでなく、アイデンティティに関連する文化についても学ぶ。	メッセージ 初めて耳にする内容も多いとは思いますが、文献資料や映像資料を用いてわかりやすく教えようと思います。
	到達目標 沖縄とは何か、沖縄人とは何かを知ることにより、その地位や権利を知り、自己決定権など「沖縄問題」に関して最先端の視点を身につけられると思う。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	概説	
	2	日本の自意識	
	3	中世の琉球 東アジア世界の形成と琉球	
	4	近世の琉球	
	5	琉球の自意識 アイデンティティの形成①	
	6	琉球の自意識 アイデンティティの形成②	
	7	琉球の地位 中国との関係	
	8	琉球の地位 日本との関係（琉球使節）	
9	琉球の地位 西洋との関係（条約締結）		
10	精神世界の形成①		
11	精神世界の形成②		
12	精神世界の形成③		
13	琉球の社会と政治		
14	琉球併合前史（日本の幕末における琉球）		
15	まとめおよび補足		
16	レポート提出		
実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは使用しない。資料はその都度配布する。参考文献は講義で示す。		
	学びの手立て 目的意識、問題意識をもって受講することが望ましい。		
	評価 平常点40%、レポート60%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 後期の沖縄の歴史Ⅱで「沖縄問題」と自己決定権について具体的に触れる。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の歴史Ⅰ（前近代）	後期	土3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-新城 俊昭	1年	E-mail:aragusuku1013@yahoo.co.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>1 本講座では、先史時代から近世琉球までの沖縄の歴史を概説的に学習する。また、時代に関連するヒト・モノにも焦点をあてる。</p> <p>2 日本史や世界史で学んだ知識に琉球・沖縄史の視点を組み込むことで、歴史の本質を見極める目を養う。</p> <p>3 沖縄という地域で独自の歴史を形成した先人の足跡を学ぶことで、沖縄人(カナンチュ)としてのアイデンティティの確立を図る。</p>	<p>沖縄学の父・伊波普猷は「汝の立つところを深く掘れ、そこには泉あり」というドイツの哲学者ニーチェの言葉を引用して、沖縄の歴史や文化を学ぶことの大切さを説いている。自らの生まれ育った地域には、先人の知恵や自分自身の存在理由を解き明かしてくれるヒントが埋まっているからだ。本講座で、ウチナンチュのアイデンティティについて学習を深めてほしい。</p>
到達目標	<p>1 先史時代の沖縄の学習を深めることで、琉球石灰岩で覆われた沖縄特有の地層から化石人骨が多く発見されていることを理解し、日本の旧石器時代の解明に興味・関心がもてる。</p> <p>2 古琉球の学習を通して「琉球国」が中国を宗主国とした東アジア社会の国際秩序の中で形成されていたことを理解し、広い視野で歴史を見ることが出来る。</p> <p>3 近世琉球の学習を通して、薩摩島津氏がなぜ琉球を侵略したのか、二重朝貢国となった琉球がどのようにして王国体制を維持することができたのか、弱小琉球の国家運営のありかたから現在の諸問題に向き合うための基礎的教養を身につけることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	授業を始めるにあたって。沖縄人はどこから来たのか	
	2	沖縄貝塚時代—貝塚文化の特徴と縄文・弥生文化との関係	テキスト 第1章の1
	3	グスク時代—按司の登場と三山時代の形成	テキスト 第2章の1, 2
	4	琉球国の誕生—三山統一と明との朝貢・冊封関係	テキスト 第2章の3
	5	第二尚氏王統の誕生と琉球の繁栄—金丸のクーデターと中央集権体制	テキスト 第3章の1
	6	大交易時代の琉球—大交易展開の歴史背景、オヤケアカハチの戦い	テキスト 第3章の2, 3
	7	薩摩島津氏の琉球侵攻—琉球侵略の歴史的背景	テキスト 第4章の1①
	8	島津氏の琉球統治—近世琉球の仕組みと江戸立（江戸上り）の意義	テキスト 第4章の1②
	9	羽地朝秀の政治改革—近世琉球の政治体制の確立	テキスト 第4章の2①
	10	薩摩支配下の進貢貿易—赤字の進貢貿易と王国体制の維持	テキスト 第4章の2②
	11	蔡温の政策—土地制度と税制の仕組み	テキスト 第4章の3
	12	両先島の支配—宮古・八重山統治と乾隆36年の大津波の影響	テキスト 第4章の4
	13	琉球文化の特徴—「組踊」にみる琉球芸能の特徴	テキスト 第4章の5
	14	欧米船の来航—押し寄せる近代の波と動揺する王府体制	テキスト 第5章の1, 2
15	琉球史のまとめ—沖縄歴史検定などを利用	試験勉強	
16	期末考査		

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：新城俊昭『教養講座 琉球・沖縄史』 編集工房東洋企画発行 2014年 1200円(学生価格)。</p> <p>参考文献：新城俊昭『沖縄から見える歴史風景』 編集工房東洋企画発行 2010年。新城俊昭『琉球・沖縄 歴史人物伝』沖縄時事出版 2007年。 その他、必要に応じて資料を配布。</p>
----	--

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・授業はシラバスに記した内容を教科書に沿って進めるので、必ず教科書を購入して予習し、授業に臨むようにすること。 ・毎時間、本時の学習内容をまとめたワークシートと関連資料を配布して授業を進めるので、ワークシートに空欄の無いようしっかりとまとめ、ファイルに整理すること。また、ワークシートに記載されていない事項は余白を利用してメモをするなど、各自で工夫すること。 ・授業の最後には簡単なテストを実施するので、ワークシートの書き込みを怠らないこと。 ・欠席の場合は、公欠・病欠にかかわらず事前に届け出ること。事情があって事前に届け出ることができなかった場合は、理由を付記して速やかに届け出ること。
--------	--

評価	<p>評価は毎時間の授業に対する取り組み、課題（レポート形式）、確認試験で行う。</p> <p>配分は、毎時間の授業評価(小テスト形式)30%、課題(フィールドワークのレポート)30%、確認試験(予め与えた問題プリントから出題)40%。また、授業に取り組む姿勢や意欲も評価の対象とし、場合によっては加点・減点することもある。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>(1)「関連科目」：沖縄の歴史Ⅱ、沖縄の考古学、沖縄の民俗、沖縄の自然環境Ⅰ・Ⅱ 「類似科目」：沖縄前近代史Ⅰ・Ⅱ「上位科目」：琉中交流史、沖縄の文学、沖縄の美術・工芸、沖縄の芸能</p> <p>(2) 次のステージ：興味・関心をもった歴史事象について沖縄県史などの文献で学習を深める。興味・関心をもった歴史事象について諸遺跡や県立博物館などの施設で学習を深める。組踊など琉球芸能を鑑賞する。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性 本学のポリシーに謳われている「自らの社会をより深く理解するための」の一助となれるような講義を心がけています。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の歴史Ⅰ（前近代）	後期	土1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-恩河 尚	1年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 前近代（明治時代以前）の沖縄歴史を、主としてグスク時代から幕末までを通史的に行います。沖縄文化を生み出した歴史的背景を概論します。	メッセージ 複雑な様相を帯びる沖縄社会を理解する手段の一つとして、本講義を位置づけています。
	到達目標 大学に入るまでにほとんど接することのなかった沖縄の歴史や文化について、本格的に学べる機会だと思います。年代等を暗記する、いわば受験勉強の延長のような講義ではなく、例えば、首里城を自らガイドできるような、あるいは沖縄の歴史・文化の基層を学べるようになるまでを目標としています。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	グスク時代と古琉球	レジュメの復習と参考文献の参照
	2	大交易時代と古琉球	同上
	3	進貢貿易と大交易時代	同上
	4	首里城と東アジア社会	現場視察。首里城に行つて欲しい。
	5	薩摩侵入	レジュメの復習と参考文献の参照
	6	薩摩侵入の歴史的意義	同上
	7	間切と村	同上
	8	沖縄人の姓名について	身内や周囲への聞き取り
	9	沖縄の道Ⅰ（海上交通）	現在との比較
	10	沖縄の道Ⅱ（陸上交通）	同上
	11	近代沖縄の前夜（牧志・恩河事件と島津斉彬）	レジュメの復習と参考文献の参照
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
	テキスト・参考文献・資料など 適当な教科書がないので、原則、テキストは使用せず、毎回、テーマに沿ったレジュメを作成・配布します。また、参考文献は、レジュメにその都度、掲載します。		
	学びの手立て 学生さんとのキャッチボールを意識した講義を心がけます。そのため、多くの質問・質疑を期待します。また、当然ながら私語は絶対に認めませんので、留意下さい。		
	評価 評価はテストとレポートで行います。テストは配付資料や他の文献等の持ち込み等を可とします。レポートは数テーマを課しますので、その中から1テーマを選んで調べて下さい。いずれも独創性にあふれた解答（テスト）と、調査内容（レポート）を期待します。配分割合は、各50%ずつです。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 配布資料に記載されている参考文献はもちろん、図書や論文等の多読を期待します。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の歴史Ⅰ（前近代）	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	深澤 秋人	1年		

学びの準備	ねらい 前近代の琉球・沖縄の歴史時代は古琉球と近世琉球に区分されます。前者では琉球王国が成立する一方、後者は薩摩藩による支配が固定化され、最終的には明治政府による併合で終焉を迎えます。本講義では、琉球王国が成立した経緯、薩摩藩に支配された時期の国家や王権の歴史的特質、および琉球社会の状況について考えます。	メッセージ 本学の図書館は沖縄県内の多くの市町村史を所蔵しています。また、県内の博物館には前近代の琉球・沖縄史の展示コーナーが設けられています。大学生活のあいだに、身近な市町村史をめぐってみること、博物館に足を運んで現物に接することをおすすめします。
	到達目標 ・古琉球において琉球王国が成立した経緯、国家と社会の関係を理解できるようになる。・近世琉球における国家や王権の歴史的特質、社会の状況を理解できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション、沖縄の歴史入門	
	2	沖縄の歴史クイズ	
	3	島々の先史時代	
	4	グスク時代の沖縄島	
	5	三山時代と第一尚氏王朝	
	6	第二尚氏王朝の成立	
	7	近世琉球の国家像	
	8	講義の折り返し地点で	
	9	近世の琉球社会①—行政区画と身分—	
	10	近世の琉球社会②—割り振られた特産物—	
	11	近世の琉球社会③—移動と抵抗—	
	12	異国船の来航と琉球	
	13	明治政府による琉球併合	
	14	沖縄の歴史Ⅰをまとめる前に	
	15	まとめ	
	16		
	テキスト・参考文献・資料など 教科書は使用しません。毎回、レジュメと図版などの参考資料を配付します。参考文献；入間田宣夫／豊見山和行『〈日本の中世5〉北の平泉、南の琉球』（中央公論新社、2002年）、豊見山和行編『日本の時代史18 琉球・沖縄史の世界』（吉川弘文館、2003年）		
	学びの手立て 古琉球と近世琉球のそれぞれの時期、琉球王国と琉球社会は運命共同体だったのか繰り返し考えること。		
	評価 課題の提出状況20%、期末試験もしくはレポート80%		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

※ポリシーとの関連性 本学のポリシーに謳われている「自らの社会をより深く理解するための」の一助となれるような講義を心がけています。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の歴史Ⅰ（前近代）	前期	土2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-恩河 尚	1年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	前近代（明治時代以前）の沖縄歴史を、主としてグスク時代から幕末までを通史的に行います。沖縄文化を生み出した歴史的背景を概論します。	複雑な様相を帯びる沖縄社会を理解する手段の一つとして、本講義を位置づけています。

到達目標	大学に入るまでにほとんど接することのなかった沖縄の歴史や文化について、本格的に学べる機会だと思います。年代等を暗記する、いわば受験勉強の延長のような講義ではなく、例えば、首里城を自らガイドできるような、あるいは沖縄の歴史・文化の基層を学べるようになるまでを目標としています。
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	グスク時代と古琉球	レジュメの復習と参考文献の参照
	2	大交易時代と古琉球	同上
	3	進貢貿易と大交易時代	同上
	4	首里城と東アジア社会Ⅰ	現場視察。首里城に行つて欲しい。
	5	首里城と東アジア社会Ⅱ	レジュメの復習と参考文献の参照
	6	首里城と東アジア社会Ⅲ	同上
	7	薩摩侵入Ⅰ	レジュメの復習と参考文献の参照
	8	薩摩侵入Ⅱ	同上
	9	薩摩侵入の歴史的意義	同上
	10	間切と村	レジュメの復習と参考文献の参照
	11	沖縄人の姓名について	身内や周囲への聞き取り
	12	沖縄の道Ⅰ（海上交通）	現在との比較
	13	沖縄の道Ⅱ（陸上交通）	同上
	14	近代沖縄の前夜Ⅰ（牧志・恩河事件と島津斉彬）	レジュメの復習と参考文献の参照
15	近代沖縄の前夜Ⅱ	同上	
16	テスト		

テキスト・参考文献・資料など	適当な教科書がないので、原則、テキストは使用せず、毎回、テーマに沿ったレジュメを作成・配布します。また、参考文献は、レジュメにその都度、掲載します。
----------------	--

学びの手立て	学生さんとのキャッチボールを意識した講義を心がけます。そのため、多くの質問・質疑を期待します。また、当然ながら私語は絶対に認めませんので、留意下さい。
--------	---

評価	評価はテストとレポートで行います。テストは配付資料や他の文献等の持ち込み等を可とします。レポートは数テーマを課しますので、その中から1テーマを選んで調べて下さい。いずれも独創性にあふれた解答（テスト）と、調査内容（レポート）を期待します。配分割合は、各50%ずつです。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 配布資料に記載されている参考文献はもちろん、図書や論文等の多読を期待します。
-------	---